

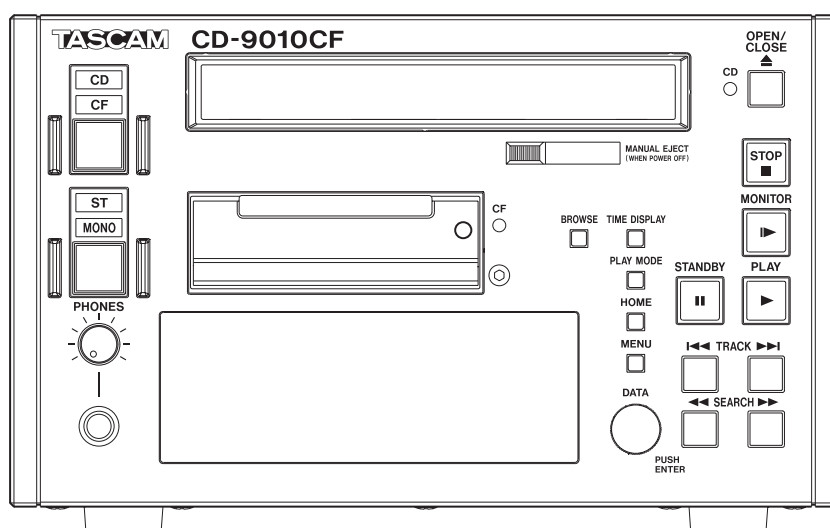
TASCAM

D01164301E

CD-9010CF







CD / Solid State Player

取扱説明書



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落したり、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に修理をご依頼ください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上の隙間をあける 隙間をあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落したりしない 火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年1回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。</p>

	注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。</p>
	指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
	禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
	禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。
	注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

目次

安全にお使いいただくために	2	ONLINE BACK CUE機能	24
第1章 はじめに	6	PLAY KEY FUNCTION機能	24
本機の概要	6	MONITOR PLAY STBY機能	25
本機の構成	6	ONLINE PLAY STBY機能	25
本書の表記	6	リピート再生	25
商標および著作権に関して	7	通常のリピート再生	25
設置上の注意	7	EOM機能	26
電源について	7	EOMタリー出力のトリガーを設定する	26
結露について	7	実際の使用方法	26
製品のお手入れ	7	トラックの終わりの部分を確認する	26
CFカードについて	7	確認時間を設定する	26
取り扱い上の注意	7	実際の使用方法	26
FORMATについて	7	ピッチコントロール再生	27
CD (コンパクトディスク) について	8	ピッチコントロール再生をオン/オフする	27
取り扱い上の注意	8	ピッチコントロール値を設定する	27
アフターサービス	8	PITCH/TIME FIT機能の説明	27
第2章 各部の名称と働き	9	第5章 プログラム再生とキュー再生	28
フロントパネル	9	プログラム再生	28
リアパネル	11	プログラムメニューの操作	28
ホーム画面	12	プログラムを追加する	28
メニューの構成	13	プログラム全体を削除する	29
メニュー画面の操作	15	プログラムを削除する	29
メニュー操作の手順	15	プログラムトラックを移動する	29
第3章 準備	16	プログラムをインポートする	30
電源のオン/オフ	16	プログラムをエクスポートする	30
日時を設定する	16	キューポイント再生	30
ディスプレイを調節する	17	キューメニューの操作	30
ディスプレイのコントラスト調節	17	キューポイントを追加する	30
ディスプレイとインジケーターの輝度調節	17	キューリスト内のキューポイントすべてを削除する	31
CFカードを挿入する/取り出す	18	キューポイントを削除する	31
CFカードを挿入する	18	キューポイントの名前を編集する	32
CFカードを取り出す	18	文字の設定方法	32
セキュリティピースについて	18	キューリストをインポートする	32
ヘッドホンの接続	19	キューリストをエクスポートする	33
パネルロック機能の設定	19	キューポイントのロード設定	33
第4章 再生	20	第6章 ファイルやフォルダーの操作 (BROWSE画面)	34
モニター再生とオンライン再生	20	BROWSE画面を開く	34
モニター再生	20	BROWSE画面内のナビゲーション	34
オンライン再生	20	BROWSE画面内のアイコン表示	34
再生モードを設定する	20	ファイルの操作	34
希望の1曲を頭から演奏する (シングルプレー)	21	フォルダーの操作	35
曲の途中から演奏する	21	フォルダー名を編集する (CFカードのみ)	35
キューポイント (ラストキュー) の自動登録	21	ファイル名を編集する (CFカードのみ)	36
再生する場所を選ぶ	22	フォルダーやファイルを削除する (CFカードのみ)	36
トラックを選ぶ	22	新しいフォルダーを作成する (CFカードのみ)	37
曲の途中をサーチする	22	CF / データCDのファイルとフォルダーについて	37
オートキュー機能	22	第7章 CFカードの管理	38
オートレディ機能	23	CFカードをクイックフォーマットする	38
インクリメンタルプレー機能	23	CFカードをフルフォーマットする	38
		オーディオCDのトラックをCFカード変換コピーする	39

第8章 各種設定および情報表示	40
デジタルリファレンスレベルの設定	40
アナログリファレンスレベルの設定	40
アナログリファレンスレベルを調節する	41
オンライン機能の設定	41
マスタークロックの設定	42
マスタークロックとデジタル出力の組み合わせについて	42
モノラルミックスの設定	42
レベルメーター表示方法の設定	43
フェールセーフ機能の設定	43
モニタリングポイントの設定	44
モニターミュートバイオンラインの設定	44
MENU画面内の設定をインポートする	45
MENU画面内の設定をエクスポートする	45
出荷時の設定に戻す	46
メディアの情報を見る	46
システムの情報を見る	47
第9章 コンピューターキーボードを使った操作	48
キーボードタイプの設定	48
キーボードを使って名前を入力する	48
第10章 REMOTE端子を使う	49
シリアル端子を使う	49
フェーダー使用の設定	49
フェーダースタート機能の設定	49
フェーダーストップ機能の設定	49
フェーダーストップ機能時の動作モード設定	50
フェーダースケールの切り換え設定	50
通信速度の設定	50
パラレル端子を使う	51
パラレルポートの3ピン/13ピン機能の設定	51
第11章 メッセージ一覧	52
エラーメッセージ	52
警告メッセージ	52
動作メッセージ	52
第12章 トラブルシューティング	53
第13章 仕様	54
定格	54
入出力定格	54
アナログオーディオ入出力定格	54
デジタルオーディオ出力定格	54
コントロール入出力定格	54
オーディオ性能	54
バックアップメモリー	55
一般	55
寸法図	55

第1章 はじめに

このたびは、TASCAM CD / Solid State Player CD-9010CFをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードすることができます。

本機の概要

本機は、放送局、ポストプロダクション、設備音響などのさまざまな業務で使用するための業務用CDプレーヤーです。以下のような特長があります。

- 市販のオーディオCDのほか、オーディオCD (CD-DA) 形式、WAV形式のファイルを記録したCD-Rディスクを再生することが可能 (WAVファイルを記録した未ファイナライズのデータCDの再生は不可)
- CFカードを使って44.1k/48kHzのリニアPCMオーディオ (WAV形式) の再生が可能 (最大ファイルサイズ2GB)
- アナログ入力: 1入力 (ステレオ) を装備 (LINE OUTPUTS 端子よりCD / CF再生音とミックス出力またはスルー出力)
- アナログ出力: 2出力 (ステレオ) / アナログモニター出力 2出力 (ステレオ) / ヘッドホンモニター出力1系統 (ステレオ) を装備
- デジタル出力: 1出力 (ステレオ、SRC内蔵) を装備
- 本番用のオンライン再生とチェック/リハーサル用のモニター再生の2種類の再生モード、それぞれの再生信号を異なる出力端子から出力することが可能
- オートキュー機能により、トラックの音声立ち上がりポイントでの待機が可能
- オートレディ機能により、トラック再生後に次のトラックの頭での自動待機が可能
- JOGダイヤルを用いた1フレーム単位のサーチが可能
- インデックスサーチが可能
- 本番再生中の誤操作を防止するフェールセーフ機能
- 外部のワードクロック (44.1kHz、48kHz) に同期可能。48kHzの外部クロックに同期中は、CDの再生信号をサンプリング周波数48kHzでデジタル出力
- ±12.5%のピッチコントロール機能
- 別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) を接続することにより、操作性の向上と機能の拡張が可能
- 曲の終了部分を再生するエンドチェック機能
- ディスク1枚あたり9箇所のキューポイントをメモリー可能
- 本体に電源が入ってなくてもCDを取り出すことができる、マニュアルイジェクト機構

本機の構成

本機の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体 x1
- 電源コード x1
- セキュリティービス x1
- 保証書 x1
- 取扱説明書 (本書) x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン/端子などを「MENUボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“MENU”のように“_”で括弧で表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。
- WAVファイルを記録したCDを「データCD」と表記します。
- 「コンパクトフラッシュカード」のことを「CFカード」と表記します。
- 現在選択中のデバイス (CDまたはCFカード) のことを「カレントデバイス」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、米国およびその他の国におけるサンディスク社の商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに关します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
 - 振動の多い場所
 - 窓際などの直射日光が当たる場所
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気が多い場所や風通しが悪い場所
 - ほこりの多い場所
- 本機は、±5度まで傾斜して設置可能です。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。

電源について

- 付属の電源コードをAC IN端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- AC100V (50-60Hz) 以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷めたり色落ちさせる原因となります。

CFカードについて

本機では、CFカードを使用しての再生、リッピングが可能です。TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) には、当社で動作確認済みのCFカードのリストが掲載されています。

取り扱い上の注意

CFカードは精密にできています。カードやスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点にご注意ください。

- 極端に温度の高い、あるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しはしないこと。
- 持ち運ぶ際、端子をむき出しのままにせず、カバーを被せて運ぶこと。

FORMATについて

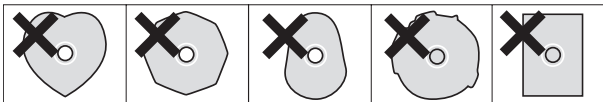
本機でフォーマットされたCFカードは、録音時の性能向上のために最適化されています。パソコンなどでフォーマットされたCFカードは、本機での録音時にエラーになる可能性があります。できる限り本機でフォーマットしたCFカードを使用することをお勧めします。

CD（コンパクトディスク）について

本機は、市販の音楽CDのほかに、オーディオCD（CD-DA）形式、WAV形式で記録したCD-Rディスクを再生することができます。また、8cmCDの再生も可能です。

取り扱い上の注意

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には、触れないでください。指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがした跡があるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。

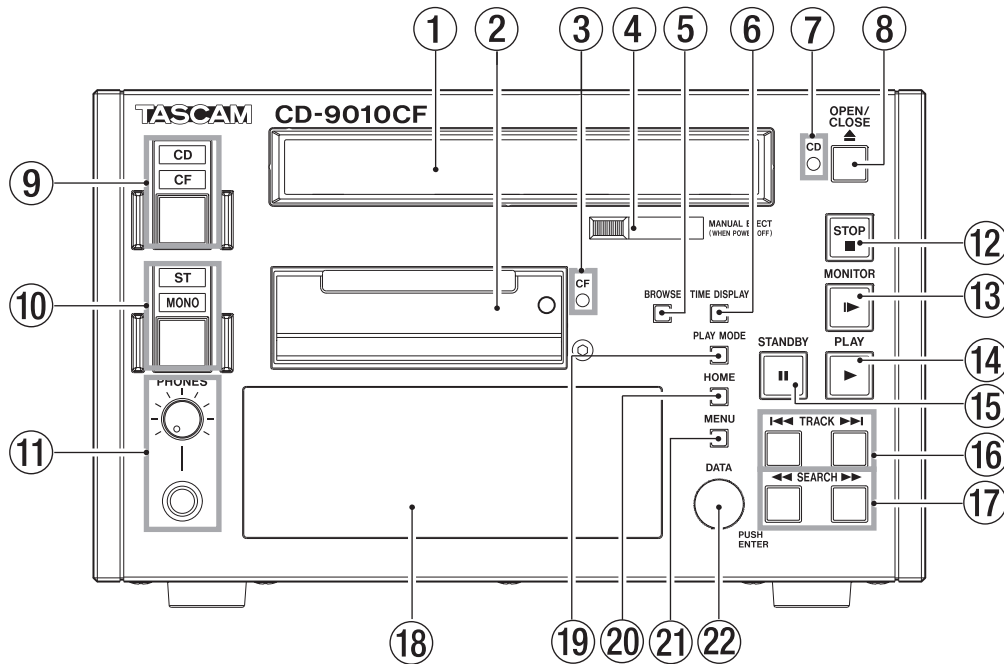


- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合の故障および損傷は有償になります。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番（CD-9010CF）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

フロントパネル



① ディスクトレイ

OPEN/CLOSEボタンを押してディスクトレイを開け、ディスクのセット/取り出しを行います。
ディスクトレイを閉じるときは、**OPEN/CLOSE**ボタンを押します。

② CFカードスロット

CFカードを挿入/取り出します。(→ 18ページ「CFカードを挿入する/取り出す」)

③ CFインジケータ

CFカードを挿入した時に、カードデータを読み込んでいる間は点滅します。カードデータの読み込みが完了すると点灯状態になり、再生が可能になります。

④ マニュアルイジェクト

本体に電源が入っていない場合でディスクを取り出したい時に使用します。

⑤ BROWSEボタン

“**BROWSE**”画面を表示します。
データCD、CFカードのフォルダー内検索時などに使用します。
オーディオCDの場合は、オーディオCDの“**BROWSE**”画面を表示します。

⑥ TIME DISPLAYボタン

ホーム画面表示中に押すと、ホーム画面の時間表示をトラック経過時間およびトラック残量時間の交互に切り換えることができます。表示切り換えは、本機のみが切り換わります。接続する別売の専用リモートコントロールユニット(TASCAM RC-9010 / RC-9010S)の時間表示は、リモコン側の**TIME DISPLAY**ボタンで切り替えます。
ホーム画面表示中にこのボタンを押しながら**DATA**ダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストを調整できます。

メモ

本機からコントラスト調節できるのは、本機のディスプレイのみです。接続した別売の専用リモートコントロールユニット(TASCAM RC-9010 / RC-9010S)のコントラスト調節はできません。

⑦ CDインジケータ

CDを挿入した時に、読み込んでいる間は点滅します。
読み込みが完了すると点灯状態になり、再生が可能になります。

⑧ OPEN/CLOSEボタン

ディスクトレイを開閉します。

メモ

本機は、ディスクの取り出し時間を短縮するために、ディスクの回転が完全に停止する前にディスクトレイが開きます。

⑨ CD/CFボタン/インジケータ

再生するメディアをCDまたはCFカードに切り換えることができます。ボタンを押すたびに交互に切り換わり、ボタン上部のインジケータに表示されます。

⑩ ST/MONOボタン/インジケータ

LINE OUTPUTS端子、**MONITOR OUTPUTS**端子、**PHONES**端子からの出力方式をステレオ/モノラル切り換えることができます。ボタンを押すたびに交互に切り換わり、ボタン上部のインジケータに表示されます。

MONOの場合、ステレオのオーディオトラックをモノラルで再生することができます。このとき出力するモノラルミックスの方式は、“**SYSTEM**”メニュー画面の“**MONOMIX**”項目で設定します。(→ 42ページ「モノラルミックスの設定」)

⑪ PHONESジャック/つまみ

ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ジャックです。**PHONES**つまみでヘッドホン出力レベルを調節します。
つまみはプッシュロック式になっており、格納が可能です。ご使用の際は、つまみを押し引き出してください。(→ 19ページ「ヘッドホンの接続」)

注意

ヘッドホンを接続する前には、**PHONES**つまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑫ STOPボタン／インジケーター

いかなる状態においても、このボタンを押すとその位置で再生を停止します。

オンライン再生時、再生待機時、モニター再生時にこのボタンを押すと停止します。

停止中は、このボタンが点灯します。

⑬ MONITORボタン／インジケーター

このボタンを押すと、モニター再生が始まります。

MONITOR OUTPUTS L / R端子およびPHONES端子から出力されます。

モニター再生中は、このボタンが点灯します。

⑭ PLAYボタン／インジケーター

停止／再生待機中にこのボタンを押すと再生を開始し、ボタンが点灯します。また、別売のRC-9010 / RC-9010Sを接続した際に、そのON LINEボタンが点灯している場合、もしくは“SYSTEM”メニューの“ONLINE FUNCTION”項目の設定が“AlwaysON”の場合には、LINE OUTPUTS L / R端子およびDIGITAL OUTPUT端子から出力され、オンライン再生の状態になります。

MONITOR OUTPUTS L / R端子およびPHONES端子へ出力する場合は、“SYSTEM”メニューの“MON MUTE ONLINE”項目を“OFF”に設定します。(→ 44ページ「モニターミュートパイオラインの設定」)

オンライン再生中は、このボタンが点灯します。

⑮ STANDBYボタン／インジケーター

停止中またはジョグ再生中の状態からこのボタンを押すと、その位置で再生待機状態になります。

モニター再生中にこのボタンを押すと、“PLAY”メニューの“MONITOR PLAY STBY”項目の設定が“BACK CUE”の場合は、ラストキューポイント（最後にモニター再生を開始した位置）の位置へロケートして再生待機状態になります。“NORMAL”の場合その位置で再生待機状態になります。

オンライン再生中にこのボタンを押すと、再生モードにより動作が異なります。

再生モード	状態
CONTINUE	“PLAY”メニューの“ONLINE PLAY STBY”項目が“NORMAL”の場合は、その位置で再生待機状態になります。
SINGLE	“BACK CUE”の場合は、ラストキューポイントの位置へロケートして再生待機状態になります。
PROGRAM	“PLAY”メニューの“ONLINE PLAY STBY”項目が“NORMAL”の場合は、次のトラックの先頭位置で再生待機状態になります。 “BACK CUE”の場合 ラストキューポイントの位置へロケートして再生待機状態になります。

再生待機中は、このボタンが点灯します。

⑯ TRACK ◀◀ / ▶▶ ボタン

トラックサーチを行います。

⑰ SEARCH ◀◀ / ▶▶ ボタン

このボタンを押している間、サーチを行います。

SEARCH ▶▶ ボタン (SEARCH ◀◀ ボタン) を押してキューサーチ動作中にSEARCH ◀◀ ボタン (SEARCH ▶▶ ボタン) を押すと、サーチ速度が速くなります。

⑱ ディスプレー

ディスク情報、本機の動作モード、メニューなど、さまざまな情報を表示します。

⑲ PLAY MODEボタン

ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、以下の順序で再生モードが切り換わります。

→ CONTINUEモード → SINGLEモード → PROGRAMモード →

⑳ HOMEボタン

“MENU”画面、“BROWSE”画面、“PROGRAM”画面、“CUE LIST”画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。

ホーム画面表示中に押すと、ホーム画面の情報表示部にファイル名、CD-TEXTをスクロール表示します。

このボタンを押しながらMENUボタンを押すと、パネルロック機能の切り換えを行うことができます。(→ 19ページ「パネルロック機能の設定」)

ホーム画面表示中にこのボタンを押しながらDATAダイヤルを回すと、ディスプレイと各インジケーターの輝度が調節できます。

このボタンを押しながらDATAダイヤルを押した状態で回すと、ディスプレイのみの輝度が調節できます。

メモ

本機から輝度調節できるのは、本機のディスプレイやインジケーターのみです。接続した別売の専用リモートコントロールユニット(TASCAM RC-9010 / RC-9010S)の輝度調節はできません。

㉑ MENUボタン

“MENU”画面を表示します。

HOMEボタンを押しながらこのボタンを押すと、パネルロック機能の切り換えを行うことができます。(→ 19ページ「パネルロック機能の設定」)

㉒ DATAダイヤル

回すとDATAダイヤルとして機能し、“MENU”画面内での選択操作を行います。

押すとENTERボタンとして機能し、“MENU”画面内での確定操作を行います。

ホーム画面表示中に、HOMEボタンを押しながらこのダイヤルを回すと、ディスプレイと各インジケーターの輝度が調節できます。

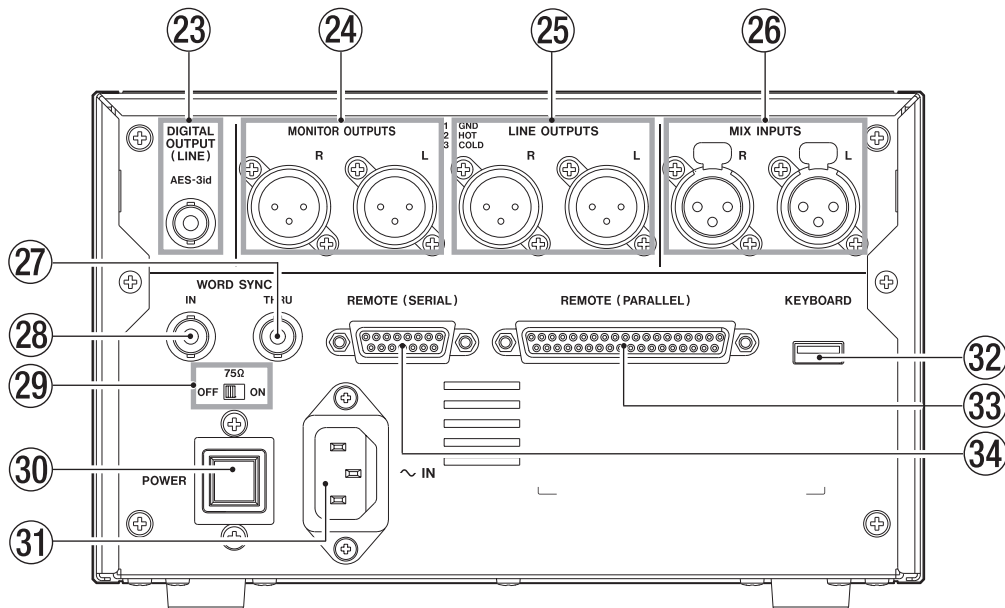
HOMEボタンを押しながらこのダイヤルを押した状態で回すと、ディスプレイのみの輝度が調節できます。

また、TIME DISPLAYボタンを押しながらこのダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストが調節できます。

メモ

輝度／コントラスト調節できるのは、本機のディスプレイやインジケーターのみです。接続した別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) の輝度／コントラスト調節はできません。

リアパネル



②③ DIGITAL OUTPUT端子

デジタル出力 (AES-3id) 端子です。

デジタル出力は、マスタークロックの設定により出力する内容が異なります。(→ 42ページ「マスタークロックの設定」)

②④ MONITOR OUTPUTS L / R (BALANCED) 端子

モニター用アナログ出力端子 (XLRバランス) です。

規定出力レベルは、+4dBu、+6dBu (最大出力レベル +15dBuの時のみ) です。

(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

②⑤ LINEOUT OUTPUTS L / R (BALANCED) 端子

ライン用アナログ出力端子 (XLRバランス) です。

規定出力レベルは、+4dBu、+6dBu (最大出力レベル +15dBuの時のみ)、-20dBu (切り換え) です。

(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

②⑥ MIX INPUTS L / R (BALANCED) 端子

ミックス入力用端子 (XLR バランス) です。

規定入力レベルは、+4dBuです。

(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

入力した信号は、CDまたはCFカードからの再生音とミックスされて**LINE OUTPUTS**端子から出力されます。(電源オフ時は、スルー信号として**LINE OUTPUTS**端子から出力されます)

②⑦ WORD SYNC THRU端子

入力したワードクロック信号をスルー出力します。他のデジタル機器にワードクロック信号を送ることができます。

②⑧ WORD SYNC IN端子

ワードクロック信号を入力します。本機が外部クロック (EXT) 基準で動作するとき、この端子に入力されるワードクロックが基準になります。

②⑨ 75Ω (ON / OFF) スイッチ

75Ω 終端のオン/オフの設定を変更します。

③⑩ POWERスイッチ

電源をオン/オフを行います。

注意

電源を入れる前には、接続機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

③⑪ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

③⑫ KEYBOARD端子

USBキーボードを接続し、ファイル名などの入力に使用します。初期設定は、日本語用キーボードに設定されています。英語用キーボードは、日本語用キーボードと配列が異なるため、英語用キーボードを使用する場合には、“**SYSTEM**”メニュー画面で設定を変更してしてください。(→ 48ページ「キーボードタイプの設定」)

注意

USBキーボード以外のUSB周辺機器を、接続しないでください。

③⑬ REMOTE (PARALLEL) 端子

D-Sub 37ピンのパラレルコントロール用I/O端子です。

フェーダースタートなどの外部コントロールを行うときに使います。(→ 51ページ「パラレル端子を使う」)

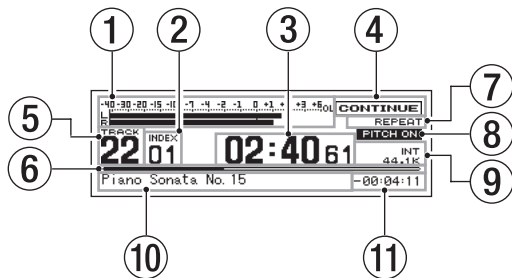
③⑭ REMOTE (SERIAL) 端子

D-Sub 15ピンのシリアルコントロール用I/O端子です。

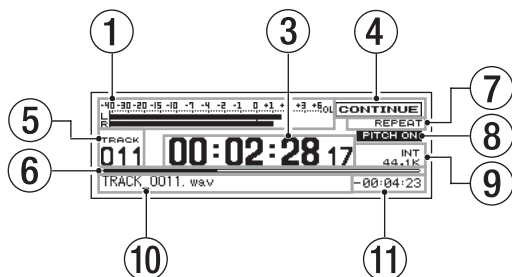
別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) を接続します。

ホーム画面

本機のディスプレイには、以下の情報が表示されます。



[ホーム画面オーディオCDモード]



[ホーム画面データCD・CFモード]

① 再生レベルメーター表示

再生レベルを表示します。

ST/MONOボタンを押してMONOインジケータを点灯させると、“SYSTEM”メニュー画面の“MON MIX”項目をのの設定に合わせて、“LR”表示から“3M”、“6M”、“L”、“R”表示に切り換わり、レベルバーが1本表示になります。(→42ページ「モノラルミックスの設定」)

ST時に、モノラルのWAVファイルを再生した場合も、レベルバーが1本表示になり、“M”表示に切り換わります。

“SYSTEM”メニュー画面の“METER TYPE”項目を“PEAK”から“VU”に設定すると、目盛り表示がVUメーター表示になります。(→43ページ「レベルメーター表示方式の設定」)

② インデックス表示

再生中/選択中のインデックス番号(オーディオCDのみ)を表示します。

③ トラック時間表示(メイン表示)

現在のトラックの時間を表示します。

再生するメディアによって表示内容が異なります。

再生メディア	表示内容
オーディオCD	分、秒、フレーム表示
データCD	時、分、秒、フレーム表示
CFカード	

TIME DISPLAYボタンを押すたびに、経過時間表示と残量時間表示と交互に切り換わります。

残量時間表示時は、先頭に“—”が表示されます。

EOMタリー信号が出力中は、“:”部分が点滅します。(→26ページ「EOM機能」)

④ 再生モード表示

現在の再生モードを表示します。

CONTINUE : 連続再生モード

SINGLE : シングル再生モード

PROGRAM : プログラム再生モード

⑤ トラック番号表示

再生中のトラック番号を表示します。

⑥ トラック再生位置表示

現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左から右にバーが伸びていきます。

⑦ リピート再生機能表示

リピート再生機能のオン/オフを表示します。

表示	状況
表示なし	リピート再生機能をオフ
REPEAT	リピート再生機能をオン
REPEAT A-	A-Bリピート再生機能の始点を設定
REPEAT A-B	A-Bリピート再生機能をオン

メモ

A-Bリピート再生機能の表示は、別売の専用リモートコントローラー(TASCAM RC-9010 / RC-9010S)からの操作でのみ表示します。

⑧ ピッチコントロール表示

ピッチコントロール機能がオンのとき、“PITCH ON”と表示されます。(→27ページ「ピッチコントロール再生」)

⑨ マスタークロック表示

現在のマスタークロックを表示します。

表示	状況
INT	本機の内部クロックを使用中
EXT	WORD SYNC IN端子に入力されるワードクロックに同期中
EXT NO CLK	WORD SYNC IN端子の入力が無信号時
EXT UNLOCK	WORD SYNC IN端子の入力信号にアンロック時
EXT (点滅)	WORD SYNC IN端子に入力されるワードクロックに同期が可能な状態(再生終了後に自動でワードクロックに再同期します)
44.1K	マスタークロック周波数が44.1kHz
48K	マスタークロック周波数が48kHz

⑩ 情報表示部

CD-TEXTの場合は、その内容が表示されます。

データCDおよびCFカードの場合は、ファイル名が表示されます。再生モードが“PROGRAM”(プログラム再生モード)の時、次プログラムの情報が表示されます。

⑪ トラック時間表示(サブ表示)

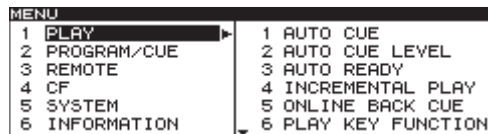
現在のトラックの時間を表示します。

メイン表示が経過時間表示の時は残量時間を表示し、メイン表示が残量時間表示時は経過時間を表示します。

残量時間表示時は、先頭に“—”が表示されます。

メニューの構成

本体のMENUボタンを押すと、“MENU”画面が表示されます。



以下の六つのメインメニューがあります。

- PLAYメニュー : 再生に関するメニューです。
- PROGRAM/CUEメニュー : プログラム再生およびキューに関するメニューです。
- REMOTEメニュー : 外部リモコンの設定などを行うメニューです。
- CFメニュー : CF特有の操作に関するメニューです。
- SYSTEMメニュー : 本機のシステム設定などを行うメニューです。
- INFORMATIONメニュー : メディア情報およびシステムバージョン/動作時間の確認を行うメニューです。

各メニューの項目は、以下の通りです。

メニュー項目	サブメニュー項目	機能	参照ページ
1 PLAY	1 AUTO CUE	オートキュー機能の設定	→ 22ページ
	2 AUTO CUE LEVEL	オートキューレベルの設定	→ 22ページ
	3 AUTO READY	オートレディの設定	→ 23ページ
	4 INCREMENTAL PLAY	インクリメンタルプレーの設定	→ 23ページ
	5 ONLINE BACK CUE	ONLINE BACK CUE機能の設定	→ 24ページ
	6 PLAY KEY FUNCTION	オンラインオフ時のPLAY・MONITORボタン機能の設定	→ 24ページ
	7 MONITOR PLAY STBY	モニター再生時のSTANDBYボタン機能の設定	→ 25ページ
	8 ONLINE PLAY STBY	オンライン再生時のSTANDBYボタン機能の設定	→ 25ページ
	9 REPEAT	リピート再生機能を設定	→ 25ページ
	10 EOM	EOM機能の設定	→ 26ページ
	11 END CHECK	END CHECK機能の設定	→ 26ページ
	12 PITCH	ピッチコントロール機能の設定	→ 27ページ
	13 PITCH %	ピッチコントロール値の設定	→ 27ページ
	14 PITCH / TIME FIT	時間指定ピッチコントロール再生の設定	→ 27ページ
2 PROGRAM/CUE	1 PROGRAM EDIT	プログラムの編集	→ 28ページ
	2 PROGRAM IMPORT	プログラムのCFカードからの読み出し	→ 30ページ
	3 PROGRAM EXPORT	プログラムのCFカードへの書き出し	→ 30ページ
	4 CUE LIST EDIT	キューリストの編集	→ 30ページ
	5 CUE LIST IMPORT	キューリストのCFカードからの読み出し	→ 33ページ
	6 CUE LIST EXPORT	キューリストのCFカードへの書き出し	→ 33ページ
	7 CUE POINT LOAD	キューポイントのロード設定	→ 33ページ
3 REMOTE	1 FADER MODE	外部リモコン (別売のTASCAM RC-9010 / RC-9010Sなど) のフェーダー使用の設定	→ 49ページ
	2 FADER START MODE	外部リモコン (別売のTASCAM RC-9010 / RC-9010Sなど) のフェーダースタート機能の設定	→ 49ページ
	3 FADER STOP MODE	外部リモコン (別売のTASCAM RC-9010 / RC-9010Sなど) のフェーダーストップ機能の設定	→ 49ページ
	4 FADER STOP ACT	フェーダーストップ機能時の動作モードの設定	→ 50ページ
	5 FADER SCALE	フェーダースケールの切り換え設定	→ 50ページ
	6 OPERATION PANEL	ボタン操作モードの設定	→ 19ページ
	7 P.PORT P3/13 ASGN	パラレルリモート端子の3pin、13pinの機能設定	→ 51ページ
	8 SERIAL BAUD RATE	シリアルリモート端子の通信速度 (ボーレート) の設定	→ 50ページ

第2章 各部の名称と働き

メニュー項目		サブメニュー項目	機能	参照ページ	
4	CF	1	FORMAT (Quick)	CFカードのクイックフォーマット	→ 38ページ
		2	FORMAT (Full)	CFカードのフルフォーマット	→ 38ページ
		3	RIP CD	CDからCFカードへの書き込み	→ 39ページ
5	SYSTEM	1	DIGITAL REF LVL	デジタルリファレンスレベルの設定	→ 40ページ
		2	ANALOG REF LVL	アナログ出力リファレンスレベルの設定	→ 40ページ
		3	ANALOG REF ADJ L	アナログ出力・Lチャンネルのリファレンスレベルの調節	→ 41ページ
		4	ANALOG REF ADJ R	アナログ出力・Rチャンネルのリファレンスレベルの調節	→ 41ページ
		5	ONLINE FUNCTION	オンライン機能の設定	→ 41ページ
		6	CLOCK MASTER	マスタークロックの設定	→ 42ページ
		7	MONO MIX	モノラル再生の設定	→ 42ページ
		8	METER TYPE	メーター表示の設定	→ 43ページ
		9	FAIL SAFE	フェールセーフ機能の設定	→ 43ページ
		10	MONITORING POINT	モニター出力のオンラインフェーダー前後の切り換え設定	→ 44ページ
		11	MON MUTE ONLINE	オンライン再生時にモニターを自動的にミュートする機能の設定	→ 44ページ
		12	LCD BRIGHTNESS	ディスプレイの輝度設定	→ 17ページ
		13	LCD CONTRAST	ディスプレイのコントラスト設定	→ 17ページ
		14	LED BRIGHTNESS	インジケータの輝度設定	→ 17ページ
		15	KEYBOARD	キーボードタイプの設定	→ 48ページ
		16	CLOCK ADJUST	日時を設定	→ 16ページ
		17	MENU IMPORT	CFカードに保存されたMENU画面内の設定に変更	→ 45ページ
		18	MENU EXPORT	MENU画面内の設定をCFカードに保存	→ 45ページ
		19	FACTORY PRESET	工場出荷時の設定に戻す	→ 46ページ
6	INFORMATION	1	MEDIA INFO	カレントデバイスのメディア情報を表示	→ 46ページ
		2	SYSTEM INFO	システムバージョン/動作時間の確認	→ 47ページ

メニュー画面の操作

各“MENU”画面内の操作は、以下の要領で行います。

項目を選択する（画面の縦方向の選択）には：

DATAダイヤルを回します。

反転表示した項目を確定するには：

DATAダイヤルを押します。

メニュー階層を一つ戻するには：

MENUボタンを押します。

メニュー画面を表示中、直接ホーム画面に戻るには：

HOMEボタンを押します。

メモ

現在表示されているリストの上または下にも項目がある場合、画面の上部に“▲”または下部に“▼”が表示されます。

メニュー操作の手順

オートレディ機能の設定を例に説明します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。

MENU	
1	PLAY
2	PROGRAM/CUE
3	REMOTE
4	CF
5	SYSTEM
6	INFORMATION

2. DATAダイヤルを回して“PLAY”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“PLAY”メニュー画面を表示します。

MENU	
1	AUTO CUE OFF
2	AUTO CUE LEVEL -24 dB
3	AUTO READY OFF
4	INCREMENTAL PLAY OFF
5	ONLINE BACK CUE OFF
6	PLAY KEY FUNCTION NORMAL

3. DATAダイヤルを回して“AUTO READY”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押してを設定状態にします。

MENU	
1	AUTO CUE OFF
2	AUTO CUE LEVEL -24 dB
3	AUTO READY ON
4	INCREMENTAL PLAY OFF
5	ONLINE BACK CUE OFF
6	PLAY KEY FUNCTION NORMAL

4. DATAダイヤルを回して、“AUTO READY”項目を“ON”または“OFF”に設定します。

MENU	
1	AUTO CUE OFF
2	AUTO CUE LEVEL -24 dB
3	AUTO READY ON
4	INCREMENTAL PLAY OFF
5	ONLINE BACK CUE OFF
6	PLAY KEY FUNCTION NORMAL

5. DATAダイヤルを押して、設定項目選択状態に戻します。

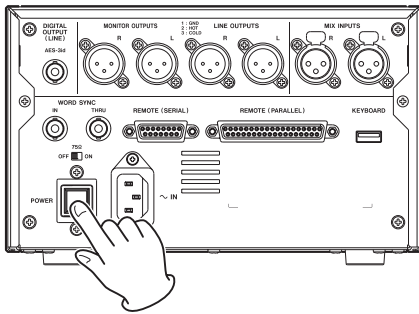
6. 必要に応じて、3.~5.を繰り返して、各項目を設定します。
メニュー項目を変更する場合はMENUボタンを押して、サブメニュー項目を表示させ1.の操作に戻ります。
設定項目を変更する場合はDATAダイヤルを回して、項目を選択します。

7. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

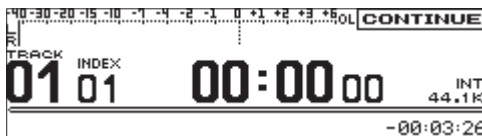
第3章 準備

電源のオン/オフ

リアパネルのPOWERスイッチを押します。



[起動画面]



[ホーム画面]

本機が起動し、起動画面が表示されます。カレントデバイスのメディアが挿入されていないとき、動作メッセージ“NO MEDIA”と表示されます。カレントデバイスのメディアが挿入されているときは、動作メッセージ“MEDIA READING”と表示され、メディアの読み込みが行われます。読み込みが終了するとホーム画面に変わります。

電源をオフにするには：

特別な終了動作は不要です。

POWERスイッチを押して、電源をオフにします。

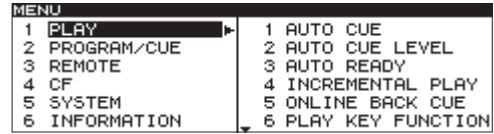
注意

本機が動作中（再生中、CFカードにデータを書き込み中など）は、電源をオフにしないでください。リッピングが正しく行われなかったり、リッピングしたデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になるなどの可能性があります。

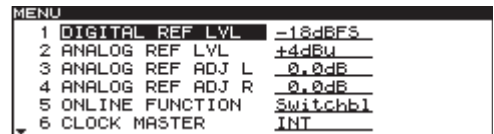
日時を設定する

本機は、本体内の時計をもとに、CFカードにリッピングしたファイルに日時を記録します。

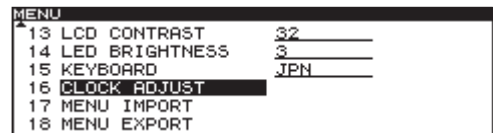
1. 本体のMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。



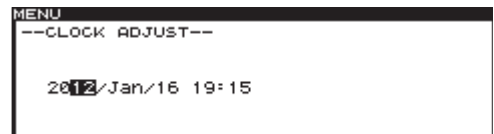
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。



3. “CLOCK ADJUST”項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のDATAダイヤルを押して、“CLOCK ADJUST”画面を表示します。



5. 以下の操作で日時を設定します。

- 本体のDATAダイヤルを押して、年→月→日の順に設定する項目を選択（反転表示）します。
- 本体のDATAダイヤルを回して、選択（反転表示）された項目を変更します。

6. 設定を終了したら、本体のDATAダイヤルを押して、日時を確定します。

“SYSTEM”メニュー画面に戻ります。

7. 本体のHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

ディスプレイを調節する

必要に応じて、ディスプレイのコントラストと明るさを調節することができます。

ディスプレイのコントラスト調節

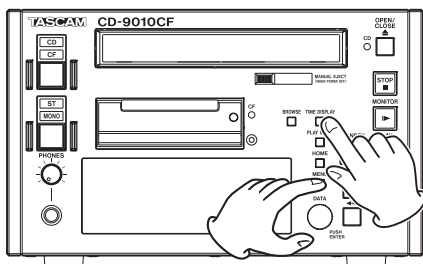
ホーム画面表示中に、**TIME DISPLAY**ボタンと**DATA**ダイヤルを使って、ディスプレイのコントラストを調節することができます。また、“**SYSTEM**”メニュー画面の“**LCD CONTRAST**”項目を使って調節することも可能です。

メモ

- 上記の操作でコントラスト調節できるのは、本機のディスプレイのみです。接続した別売の専用リモートコントロールユニット（TASCAM RC-9010 / RC-9010S）のコントラスト調節はできません。
- ディスプレイのコントラストの設定は、電源をオフにしても保持されます。

本機のボタン操作の場合

ホーム画面表示中に、本体の**TIME DISPLAY**ボタンを押しながら**DATA**ダイヤルを回すことにより、本機のディスプレイのコントラストを調節します。



メニュー操作の場合

1. 本体の**MENU**ボタンを押して、“**MENU**”画面を表示します。
2. “**SYSTEM**”メニュー画面を表示します。
3. “**LCD CONTRAST**”項目を選択（反転表示）します。

MENU	
9 FAIL SAFE	LOW LIM
10 MONITORING POINT	PreFader
11 MON MUTE ONLINE	ON
12 LCD BRIGHTNESS	5
13 LCD CONTRAST	32
14 LED BRIGHTNESS	3

4. 本体の**DATA**ダイヤルを押してカーソル（反転表示部）を右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体の**DATA**ダイヤルを回して、コントラストを調節します。
選択肢：“0”～“63”（初期値：“32”）
6. 本体の**HOME**ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

ディスプレイとインジケータの輝度調節

ホーム画面表示中に、**HOME**ボタンと**DATA**ダイヤルを使って、ディスプレイのバックライトの明るさと各インジケータの輝度を調節することができます。

また、“**SYSTEM**”メニュー画面の“**LCD BRIGHTNESS**”項目または“**LED BRIGHTNESS**”を使って調節することも可能です。

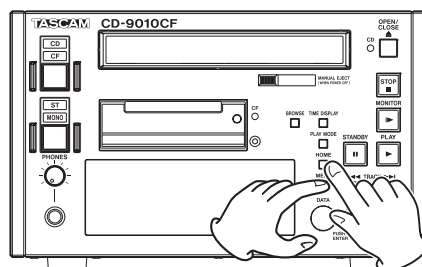
メモ

- 上記の操作で輝度を調節できるのは、本機のディスプレイやインジケータのみです。接続した別売の専用リモートコントロールユニット（TASCAM RC-9010 / RC-9010S）の輝度調節はできません。
- ディスプレイおよびインジケータの輝度の設定は、電源をオフにしても保持されます。

本機のボタン操作の場合

ホーム画面表示中に、本体の**HOME**ボタンを押しながら**DATA**ダイヤルを回すことにより、本機のディスプレイと各インジケータの輝度を調節することができます。

また、本体の**HOME**ボタンを押しながら**DATA**ダイヤルを押した状態で回すことにより、本機のディスプレイのみの輝度を調節することができます。



メニュー操作の場合

1. 本体の**MENU**ボタンを押して、“**MENU**”画面を表示します。
2. “**SYSTEM**”メニュー画面を表示します。
3. “**LCD BRIGHTNESS**”項目または“**LED BRIGHTNESS**”項目を選択（反転表示）します。

MENU	
9 FAIL SAFE	LOW LIM
10 MONITORING POINT	PreFader
11 MON MUTE ONLINE	ON
12 LCD BRIGHTNESS	5
13 LCD CONTRAST	32
14 LED BRIGHTNESS	3

4. 本体の**DATA**ダイヤルを押してカーソル（反転表示部）を右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。

MENU	
9 FAIL SAFE	LOW LIM
10 MONITORING POINT	PreFader
11 MON MUTE ONLINE	ON
12 LCD BRIGHTNESS	5
13 LCD CONTRAST	32
14 LED BRIGHTNESS	3

5. 本体の**DATA**ダイヤルを回して、明るさを調節します。
“**LCD**” 選択肢：“0”～“7”（初期値：“5”）
“**LED**” 選択肢：“0”～“7”（初期値：“3”）
6. 本体の**HOME**ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

CFカードを挿入する／取り出す

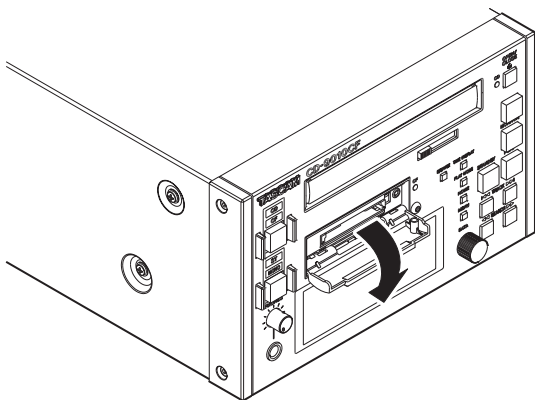
CFカードを挿入する

本機で再生／リッピングを行うには、フロントパネルのCFカードスロットにCFカードを挿入します。

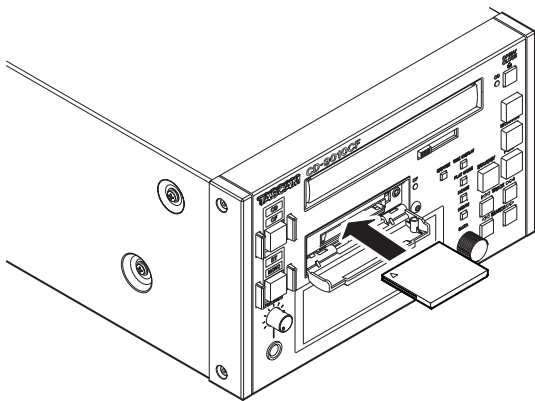
メモ

電源がオン／オフどちらのときもCFカードを挿入することができます。

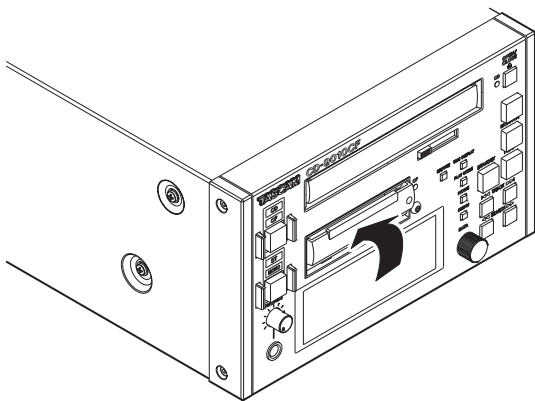
1. カードスロットのカバーを手前に引き開けます。



2. CFカードを正しい向きに挿入します。
ラベル面を上、端子部を奥にして挿入します。



3. カードスロットのカバーを閉じます。



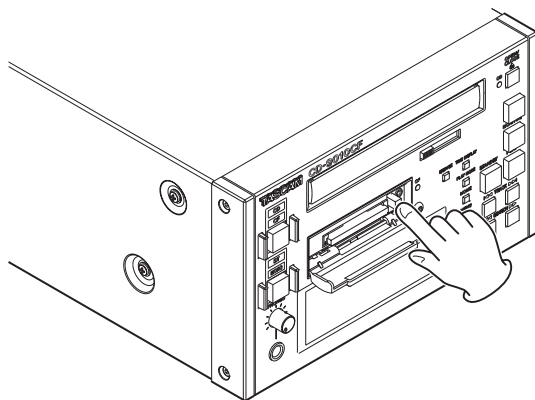
CFカードを取り出す

電源をオフにするか、動作を停止してから、CFカードを取り出します。

注意

本機が動作中（再生中、CFカードにデータを書き込み中など）は、絶対にCFカードを取り出さないでください。リッピングが正しく行われなかったり、データが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になるなどの可能性があります。

1. カードスロットのカバーを手前に引き開けます。
2. CFカードスロットの右にある四角ボタンを押すと、CFカードが一部排出されます。

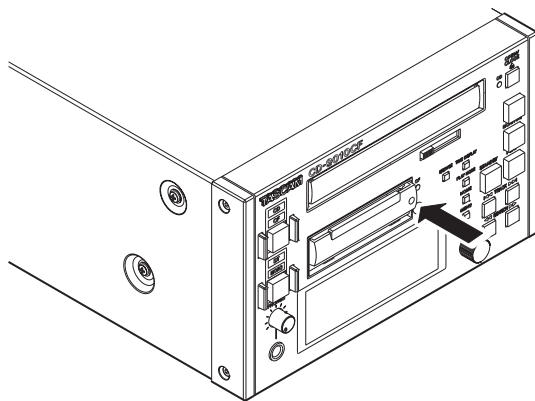


3. 手でつまんでCFカードを引き出します。

セキュリティービスについて

付属のセキュリティービスを使ってカードスロットのカバーをロックすることができます。

セキュリティービスの取り付け／取り外しは、プラスドライバーを使って行ってください。



ヘッドホンの接続

ステレオヘッドホンをフロントパネルの**PHONES**端子に接続します。

PHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

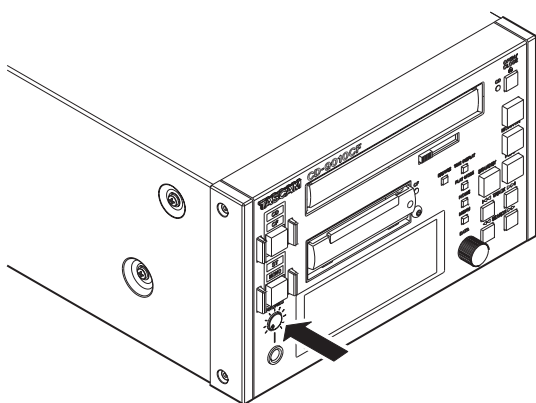
注意

ヘッドホンを接続する前には、**PHONES**つまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

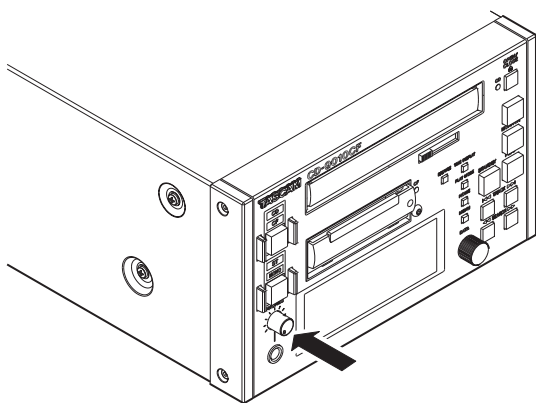
メモ

PHONESつまみを押し込むことにより、誤操作を防ぐことができます。

つまみが突き出している状態で、つまみ操作が可能になります。



[PHONESつまみを押し込んだ状態]



[PHONESつまみが出ている状態]

パネルロック機能の設定

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) からの操作の受付のみに設定することができます。

1. **MENU**ボタンを押して、“**MENU**”画面を表示します。
2. “**REMOTE**”メニュー画面を表示します。
3. “**OPERATION PANEL**”項目を選択 (反転表示) します。

MENU		
2	FADER START MODE	DISABLE
3	FADER STOP MODE	DISABLE
4	FADER STOP ACT	STANDBY
5	FADER SCALE	0dB MAX
6	OPERATION PANEL	RC ONLY
7	P.PORT P3/13 ASGN	STANDBY

4. **DATA**ダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. **DATA**ダイヤルを回して、本機のフロントパネルからのボタン操作を行えるようにするかどうかを設定します。

CD+RC :

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) および本機のフロントパネルからのボタン操作が行えます。

RC ONLY (初期値) :

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) を接続時、本機のフロントパネルからのボタン操作を受け付けなくなります (**OPEN/CLOSE**ボタン、**CD/CF**ボタン、**ST/MONO**ボタンを除く)。

6. 設定が終了したら、**HOME**ボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- 本機単体での使用の場合は、“**RC ONLY**”が選択されていても、パネルはロックされません。
- パネルロック後、本機でロックを解除したい場合は、**HOME**ボタンを押しながら**MENU**ボタンを押してください。ポップアップメッセージ“**OPERATION PANEL Change to CD+RC ?**”がでますので、“**Yes**”を選択するとロックが解除されます。
- **HOME**ボタンを押しながら**MENU**ボタンを押すと、ポップアップメッセージが表示され、“**Yes**”を選択するとパネルロック機能の設定を切り換えることが出来ます。
- パネルロック機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

第4章 再生

モニター再生とオンライン再生

本機には、モニター再生とオンライン再生という2種類の再生モードがあります。それぞれの再生モード時における出力先を個別に設定することができます。

たとえば、放送やイベントなどの現場で、モニター再生モードを使って本番前にトラックや再生ポイントの頭出しを行ってから、本番時にそのポイントからオンライン再生を行うことができます。

モニター再生

“SYSTEM”メニュー画面の“ONLINE FUNCTION”項目の設定が“SWTCH.OK”の状態が前提となります。(→41ページ「オンライン機能の設定」)

メモ

- 上記の条件であれば、PLAYボタンでも同様のモニター再生が可能です。
- ジョグ再生、サーチ時もモニター再生の出力状態になります。

再生方法

停止中、再生待機中またはジョグ再生中の状態からMONITORボタンを押す。

本機の出力の状態

出力端子	出力状態
DIGITAL OUTPUT端子	出力しない
LINE OUTPUTS端子	出力しない
MONITOR OUTPUTS端子	出力する

オンライン再生

“SYSTEM”メニュー画面の“ONLINE FUNCTION”項目の設定が“AlwaysON”の状態が前提となります。(→41ページ「オンライン機能の設定」)

再生方法

再生待機中／モニター再生中／ジョグ再生中の状態からPLAYボタンを押す。

本機の出力の状態

出力端子	出力状態
DIGITAL OUTPUT端子	出力する
LINE OUTPUTS端子	出力する
MONITOR OUTPUTS端子	出力しない

メモ

“SYSTEM”メニュー画面の“MON MUTE ONLINE”項目を“OFF”に設定すると、常にMONITOR OUTPUTS端子より出力することができます。(→44ページ「モニターミュートバイオンラインの設定」)

再生モードを設定する

本機は、以下の3種類の方法（再生モード）で、カレントデバイスのトラックを再生することができます。

連続再生モード（初期設定）

ホーム画面上の再生モード表示部に“CONTINUE”アイコンが点灯します。

カレントデバイスのトラック番号順に再生します。

シングル再生モード

ホーム画面上の再生モード表示部に“SINGLE”アイコンが点灯します。

選択したトラックを再生し、再生が終わると停止します。

プログラム再生モード

ホーム画面上の再生モード表示部に“PROGRAM”アイコンが点灯します。

あらかじめ設定したプログラムの順番に再生します。(→28ページ「プログラム再生」)

ホーム画面の再生モード表示部に現在の再生モードが表示されます。PLAY MODEボタンを使って、再生モードを設定することができます。

ボタンを押すたびに以下の順に切り換わります。

→CONTINUEモード → SINGLEモード → PROGRAMモード

メモ

- 本取扱説明書では、特に断らないかぎり、再生モードが“CONTINUE”（連続再生モード）に設定されている前提で説明を行います。
- 再生モードの設定は、電源をオフにしても保持されます。

希望の1曲を頭から演奏する(シングルプレー)

以下に、希望の曲を選んでから曲を確認(モニター再生)した後、本番の再生(オンライン再生)を行う手順を説明します。なお、各メニュー項目が初期設定のままの状態で行うものとします。

1. **PLAY MODE**ボタンを使って、シングルモードを選択します。
ホーム画面の再生モード表示部に“**SINGLE**”が点灯するまで、必要な回数だけ**PLAY MODE**ボタンを押します。
2. **MENU**ボタンを押して“**MENU**”画面を表示し、“**PLAY**”メニュー画面の“**AUTO CUE**”項目を“**ON**”に設定します。
3. **HOME**ボタンを押して、ホーム画面にします。
4. **TRACK** **◀◀** / **▶▶** ボタンを使って、再生する曲(トラック)を選択します。
選択トラックの音声が立ち上がるポイントで再生待機状態になります(**STANDBY**ボタン点灯)。

メモ

再生モードが“**CONTINUE**”(連続再生モード)および“**SINGLE**”(シングル再生モード)のときは、数字ボタン(0~9ボタン)を使ってトラックを選択することもできます。オーディオCDの場合は2桁、データCDまたはCFカードの場合は3桁の入力を行います(例:オーディオCDのトラック2の場合は0ボタン→2ボタン)。

5. 再生音を確認するには、**MONITOR**ボタンを押してモニター再生を行います(**MONITOR**ボタン点灯)。
モニター再生音の確認は、外部のモニターシステムを使って行うことができるほかに、本機の**PHONES**端子に接続したヘッドホンを使って行うこともできます。
6. 確認後、**STANDBY**ボタンを押します。
曲が始まるポイントに戻って、再生待機状態になります(**STANDBY**ボタン点灯)。
7. **PLAY**ボタンを押して、オンライン再生を始めます。
曲が終わると自動的に再生待機状態になります。
演奏を中断するときは、**STOP**ボタンを押します。

曲の途中から演奏する

曲の途中の希望のポイントを探して、そのポイントから本番の再生を行うには、以下の操作を行います。

1. 停止または再生待機状態からサーチ機能(**SEARCH** **◀◀** / **▶▶** ボタン使用)を使って希望のポイントを探し、再生待機状態にします。(→22ページ「曲の途中をサーチする」)
2. 希望のポイントを探したら、**MONITOR**ボタンを押してモニター再生を行い、ポイントを確認します。
3. **STANDBY**ボタンを押します。
手順2.で設定したポイントに戻ってオンライン待機状態になります(**STANDBY**ボタン点灯)。
設定ポイントを調整したいときは、手順1.に戻ります。
4. **PLAY**ボタンを押して、オンライン再生を始めます。
曲が終わると自動的に再生待機状態になります。

メモ

演奏を中断するときは、**STOP**ボタンを押します。

キューポイント(ラストキュー)の自動登録

停止状態位置または再生待機状態位置からモニター再生を開始した位置がキューポイントとして自動登録されます。

最後に登録されたキューポイントはラストキューとなり、**STANDBY**ボタンを押すとラストキューポイント(最後にモニター再生を開始した位置)にロケートし、再生待機状態になります。

メモ

- 別売の専用リモートコントロールユニット(TASCAM RC-9010 / RC-9010S)を使うと、上記に自動登録されるキューポイントを数字ボタン(0~9ボタン)に登録することができます。
- ジョグモードから**STANDBY**ボタンを押した場合も、その位置がキューポイントとして登録されます。

再生する場所を選ぶ

トラックを選ぶ

TRACK ◀◀ / ▶▶ ボタンを使ってトラックを選択（スキップ）できます。

◀◀ ボタン：

トラックの経過時間が1秒以上のときに押すと、そのトラックの頭に戻ります。経過時間が1秒未満のときに押すと、手前のトラックの頭にスキップします。

▶▶ ボタン：

次のトラックの頭にスキップします。もう一度押すと、その次のトラックの頭にスキップします。

メモ

- プログラム再生モード時は、プログラム順に従って前後のトラックにスキップします。
- トラック1の頭で◀◀ ボタンを押すと最後のトラックの頭に、最後のトラックのときに▶▶ ボタンを押すと最初のトラックの頭にスキップします。

トラック選択後の動作

TRACK ◀◀ / ▶▶ ボタンを押してトラックを選択した後の本機の動作は、TRACK ◀◀ / ▶▶ ボタンを押したときの本機の動作状態、オートキュー機能のオン/オフ状態の設定によって異なります。（→ 22ページ「オートキュー機能」）

オートキュー機能がオンのとき

オートキュー機能がオンのときは、“PLAY” メニュー画面の“**AUTO CUE LEVEL**”項目で設定した音量レベルで信号が立ち上がる位置で再生待機状態になります。

オートキュー機能がオフのとき

トラックの先頭位置で再生待機状態になります。

曲の途中をサーチする

停止中、再生待機中、モニター再生中またはジョグ再生中にSEARCH ◀◀ / ▶▶ ボタンを押し続けると、キューサーチができます。

SEARCH ▶▶ ボタン（SEARCH ◀◀ ボタン）を押してキューサーチ中にSEARCH ◀◀ ボタン（SEARCH ▶▶ ボタン）を押すと、サーチ速度が速くなります。

オートキュー機能

オートキュー機能をオンにすると、トラックを選択したときに、トラック冒頭の無音部分をスキップしてトラックの実際の「信号」が立ち上がる位置で再生待機状態になります。そのため再生を始めた直後に音が出ます。

メモ

- キュー機能で再生するときには、オートキュー機能は働きません。
- オートキュー機能がオンのときにトラックを選択した場合は、音声が入り始める位置で再生待機状態になります。
- オートキュー機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

なお、オートキュー機能動作時におけるオーディオ信号検出のスレッシュホールドレベル（＝オートキューレベル）を設定することができます。すなわち、本機はオートキューレベル以上の信号を「信号」、オートキューレベル以下の信号を「無音」として扱います。

1. MENU ボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “PLAY” メニュー画面を表示します。
3. “AUTO CUE” 項目を選択（反転表示）します。

MENU	
1	AUTO CUE OFF
2	AUTO CUE LEVEL -24 dB
3	AUTO READY OFF
4	INCREMENTAL PLAY OFF
5	ONLINE BACK CUE OFF
6	PLAY KEY FUNCTION NORMAL

4. DATA ダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATA ダイヤルを回して、設定値を“ON”に設定します。（初期値：“OFF”）
6. DATA ダイヤルを押してカーソルを左側に移動し、設定項目選択状態に戻します。
7. “AUTO CUE LEVEL” 項目を選択（反転表示）します。

MENU	
1	AUTO CUE OFF
2	AUTO CUE LEVEL -24 dB
3	AUTO READY OFF
4	INCREMENTAL PLAY OFF
5	ONLINE BACK CUE OFF
6	PLAY KEY FUNCTION NORMAL

8. DATA ダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
9. DATA ダイヤルを回して、希望のオートキューレベルを設定します。
設定範囲：“-72dB”～“-24dB”
（6dBステップ、初期値：“-24dB”）
10. 設定が終了したら、HOME ボタンを押してホーム画面に戻ります。

オートレディ機能

オートレディ機能をオンにすると、トラックの再生が終了した後、次のトラックの先頭で再生待機状態になります。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PLAY”メニュー画面を表示します。
3. “AUTO READY”項目を選択（反転表示）します。

MENU		
1	AUTO CUE	OFF
2	AUTO CUE LEVEL	-24 dB
3	AUTO READY	OFF
4	INCREMENTAL PLAY	OFF
5	ONLINE BACK CUE	OFF
6	PLAY KEY FUNCTION	NORMAL

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、設定値を“ON”に設定します。（初期値：“OFF”）
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- オートキュー機能もオンになっている場合は、トラックの先頭ではなく、音の立ち上がり位置で再生待機状態になります。
- オートレディ機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

インクリメンタルプレー機能

インクリメンタルプレー機能をオンにすると、再生中にPLAYボタンを押したときに次のトラックの先頭から再生を行い、再生中にSTOPボタンを押したときに次のトラックの先頭で再生待機状態になります。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PLAY”メニュー画面を表示します。
3. “INCREMENTAL PLAY”項目を選択（反転表示）します。

MENU		
1	AUTO CUE	OFF
2	AUTO CUE LEVEL	-24 dB
3	AUTO READY	OFF
4	INCREMENTAL PLAY	OFF
5	ONLINE BACK CUE	OFF
6	PLAY KEY FUNCTION	NORMAL

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、設定値を“ON”に設定します。（初期値：“OFF”）
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

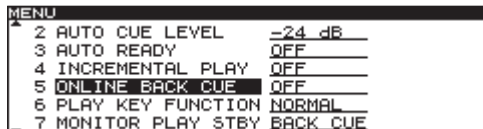
メモ

- インクリメンタルプレー機能オンのとき、再生待機中にPLAYボタンを押すと、その位置から再生を開始します。再生待機中にSTOPボタンを押すと停止します。なお、最終トラックを再生中にPLAYボタンを押すとカレントデバイスの先頭のトラックから再生を行い、STOPボタンを押すとカレントデバイスの先頭のトラックで再生待機状態になります。
- インクリメンタルプレー機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

ONLINE BACK CUE機能

この機能をオンにすると、接続した別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のON LINEボタンをオフにした瞬間に、ラストキューポイント (最後にモニター再生を開始した位置) に移動し、本機が再生待機状態になります。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “PLAY” メニュー画面を表示します。
3. “ONLINE BACK CUE” 項目を選択 (反転表示) します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、設定値を“ON”に設定します。(初期値：“OFF”)
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

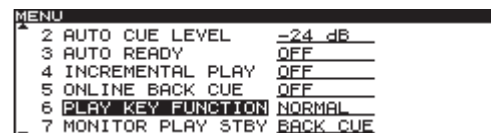
ONLINE BACK CUE機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

PLAY KEY FUNCTION機能

接続した別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のON LINEボタンがオフのときの機能です。

“Normal” を選択すると、再生中にPLAYボタンを押しても何も起こりませんが、インクリメンタルプレー機能をオンにしておくと、再生中にPLAYボタンを押すとインクリメンタルプレーになります。“Back Cue” を選択すると、インクリメンタルプレー機能がオフの場合には、再生中にPLAYボタンを押した際にラストキューポイント (最後にモニター再生を開始した位置) へ移動して再生します。このときのPLAYボタンでの再生は、モニター再生 (モニター出力：オン、ライン出力：オフ) になります。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “PLAY” メニュー画面を表示します。
3. “PLAY KEY FUNCTION” 項目を選択 (反転表示) します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、オンライン再生モードがオフのときの動作を設定します。
選択肢：“NORMAL” (初期値)、“BACK CUE”
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- MONITORボタンでも同様の動作を行います。
- PLAY KEY FUNCTION機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

MONITOR PLAY STBY機能

モニター再生中のSTANDBYボタンの動作を設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PLAY”メニュー画面を表示します。
3. “MONITOR PLAY STBY”項目を選択（反転表示）します。

MENU		
4	INCREMENTAL PLAY	OFF
5	ONLINE BACK CUE	OFF
6	PLAY KEY FUNCTION	NORMAL
7	MONITOR PLAY STBY	BACK CUE
8	ONLINE PLAY STBY	NORMAL
9	REPEAT	OFF

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、モニター再生中のSTANDBYボタンの動作を設定します。

NORMAL：その場で再生待機

BACK CUE（初期値）：ラストキューポイント（最後にモニター再生を開始した位置）へロケートし、再生待機

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

MONITOR PLAY STBY機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

ONLINE PLAY STBY機能

オンライン再生中のSTANDBYボタンの動作を設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PLAY”メニュー画面を表示します。
3. “ONLINE PLAY STBY”項目を選択（反転表示）します。

MENU		
5	ONLINE BACK CUE	OFF
6	PLAY KEY FUNCTION	NORMAL
7	MONITOR PLAY STBY	BACK CUE
8	ONLINE PLAY STBY	NORMAL
9	REPEAT	OFF
10	EOM	OFF

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、オンライン再生中のSTANDBYボタンの動作を設定します。

NORMAL（初期値）：再生モードが“CONTINUE”および“SINGLE”の場合はその場で再生待機、“PROGRAM”の場合は次のトラックの先頭で再生待機

BACK CUE：ラストキューポイント（最後にモニター再生を開始した位置）へロケートし、再生待機

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

ONLINE PLAY STBY機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

リピート再生

カレントデバイスの全トラックを繰り返し再生することができます。

通常のリピート再生

リピート再生機能をオンにすると、再生モードによって以下の動作を行います。

- “CONTINUE”（連続再生モード）：ディスク全体を繰り返し再生
- “SINGLE”（シングル再生モード）：現在のトラックを繰り返し再生
- “PROGRAM”（プログラム再生モード）：
プログラム全体を繰り返し再生

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PLAY”メニュー画面を表示します。
3. “REPEAT”項目を選択（反転表示）します。

MENU		
7	MONITOR PLAY STBY	BACK CUE
8	ONLINE PLAY STBY	NORMAL
9	REPEAT	OFF
10	EOM	OFF
11	END CHECK	5s
12	PITCH	OFF

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、設定値を“ON”に設定します。（初期値：“OFF”）
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

リピート再生の設定は、電源をオフにしても保持されます。

リピート再生をオフにするには

“PLAY”メニュー画面の“REPEAT”項目を使って、設定をオフにします。

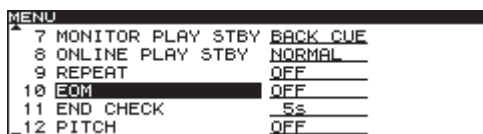
EOM機能

EOM機能をオンしておくことで、トラックの残り時間を設定した時間以下になると**REMOTE (PARALLEL)** 端子からEOMタリー信号を出力します。

EOMタリー出力のトリガーを設定する

EOM機能を使って、EOMタリー信号を出力するトリガーとなるトラックの残り時間を設定します。

1. **MENU** ボタンを押して、“**MENU**” 画面を表示します。
2. “**PLAY**” メニュー画面を表示します。
3. “**EOM**” 項目を選択（反転表示）します。



4. **DATA** ダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. **DATA** ダイヤルを回して、トリガーとなる残り時間を設定します。
選択肢：“**OFF**”（初期値）、“**0s**”、“**5s**” ~ “**35s**”（秒、5秒単位）

メモ

“**0s**” に設定したときは、トラック終了時に約100msほどのパルスを出力します。

6. 設定が終了したら、**HOME** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

EOM機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

実際の使用方法

1. EOMタリー信号を受信する機器を、**REMOTE (PARALLEL)** 端子に接続します。
2. 本機および受信機器の電源を入れます。
3. 本機の再生を始めます。

再生中のトラックの残り時間が設定された時間以下になると、**REMOTE (PARALLEL)** 端子からEOMタリー信号が出力されます。EOMタリー信号を出力中は、ホーム画面トラック時間表示（メイン表示）の時間桁を区切る“:”表示が点滅します。

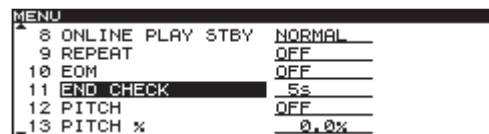
トラックの終わりの部分を確認する

END CHECK機能をオンしておくことで、トラックの終わりの部分を確認することができます。トラックの終わり方を確認したいときに便利です。

確認時間を設定する

トラックの終了時間からの確認時間を設定します。

1. **MENU** ボタンを押して、“**MENU**” 画面を表示します。
2. “**PLAY**” メニュー画面を表示します。
3. “**END CHECK**” 項目を選択（反転表示）します。



4. **DATA** ダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. **DATA** ダイヤルを回して、トラックの終わりの部分を確認する時間を設定します。
選択肢：“**5**”（初期値） ~ “**35**”（秒、5秒単位）
6. 設定が終了したら、**HOME** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

END CHECK機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

実際の使用方法

別売の専用リモートコントロールユニット（TASCAM RC-9010 / RC-9010S）の**SHIFT** ボタンを押しながら**TRACK** ▶▶ **[END CHK]** ボタンを押すと、現在選択しているトラックの終了時間から、上記で設定した確認時間分さかのぼった位置にロケートし、モニター再生が始まります。再生終了後は、ラストキューポイント（最後にモニター再生を開始した位置）の位置に戻り再生待機状態になります。

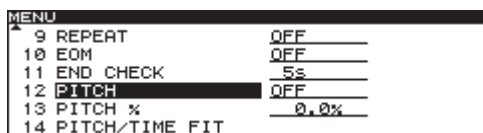
ピッチコントロール再生

本機では、ピッチ（音の高さと再生の速さ）を変化させて再生できます（ピッチコントロール再生）。

ピッチコントロール再生を行うには、以下の手順で行います。

ピッチコントロール再生をオン／オフする

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PLAY”メニュー画面を表示します。
3. “PITCH”項目を選択（反転表示）します。



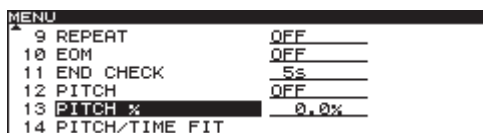
4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、オン／オフを設定します。（初期値：“OFF”）
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

再生中にピッチコントロール機能のオン／オフを切り換えると、再生音が瞬間的に途切れることがあります。

ピッチコントロール値を設定する

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PLAY”メニュー画面を表示します。
3. “PITCH %”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、ピッチコントロール値を設定します。ピッチコントロール値は、“-12.5%”～“+12.5%”の範囲で設定することができます。
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- ピッチコントロール機能をオフにしても、上記手順2.で設定したピッチコントロール値は保持されますので、再度ピッチコントロール機能をオンにすると有効になります。
- ピッチコントロール値の設定は、電源をオフにしても保持されます。

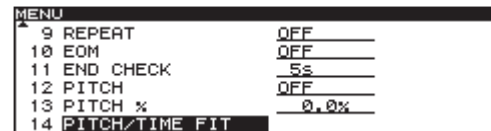
PITCH/TIME FIT機能の説明

現在トラックの残り時間を任意の時間長を設定して再生することができる機能です。

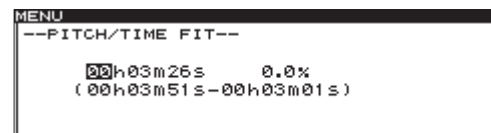
設定できる範囲は、ピッチコントロール値が-12.5～+12.5%となる範囲で設定できます。

設定は、停止状態または再生待機状態で行うことができます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PLAY”メニュー画面を表示します。
3. “PITCH/TIME FIT”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押して、“PITCH/TIME FIT”画面を表示します。



5. 以下の操作により再生時間の設定をします。
 - 現在トラックの残り時間が始めに表示されます。
 - DATAダイヤルを回して、選択（反転表示）された項目を変更します。
 - DATAダイヤルを押して、時→分→秒の順に設定する項目を選択（反転表示）します。入力欄の下段には、設定可能な時間の範囲が（最大-最小）の順で表示されています。
6. 設定を終了したら、DATAダイヤルを押して設定を確定します。設定がピッチコントロール値に反映され保存され、“PLAY”メニュー画面に戻ります。
7. HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

第5章 プログラム再生とキュー再生

プログラム再生

あらかじめプログラムを設定することにより、希望のトラックを希望の順に再生することができます。最大99トラックまでプログラムすることができます。

プログラムメニューの操作

“PROGRAM EDIT”項目を選択中（反転表示中）にDATAダイヤルを押すと、“PROGRAM”画面（プログラムリスト）を表示します。希望の項目を選択しDATAダイヤルを押すと、“PROGRAM MENU”をポップアップ表示します。

ADD PROGRAM

選択（反転表示）したトラックをプログラムトラックに追加します。

DELETE ALL PROGRAM

登録したすべてのプログラムトラックを削除します。

DELETE PROGRAM

選択（反転表示）したプログラムトラックを削除します。

MOVE

選択（反転表示）したプログラムトラックの位置を、別の位置に移動します。

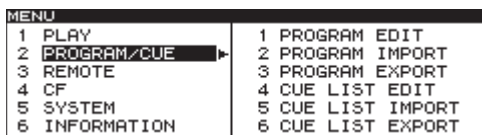
CANCEL

“PROGRAM MENU”に関する操作をキャンセルし、“PROGRAM MENU”を閉じて“PROGRAM”画面に戻ります。

プログラムを追加する

以下の手順でプログラムを設定することができます。

1. 停止中にPLAY MODEボタンを押して、再生モードを“PROGRAM”（プログラム再生モード）に設定します。（→20ページ「再生モードを設定する」）
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。



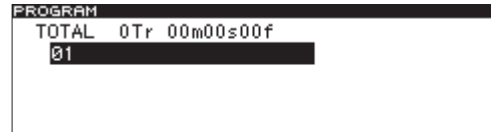
4. “PROGRAM EDIT”項目を選択（反転表示）します。



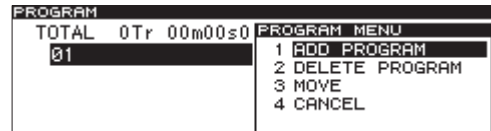
5. DATAダイヤルを押して、“PROGRAM”画面を表示します。



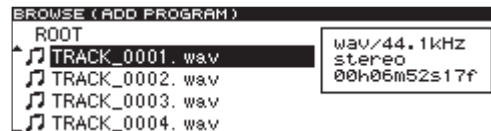
6. DATAダイヤルを回して追加するプログラム番号を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“PROGRAM MENU”を表示します。



7. DATAダイヤルを回して、“ADD PROGRAM”項目を選択（反転表示）します。



8. DATAダイヤルを押して、“BROWSE (ADD PROGRAM)”画面を表示します。



9. DATAダイヤルを回してプログラムするトラックを選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して確定します。
トラックがプログラムに登録されます。

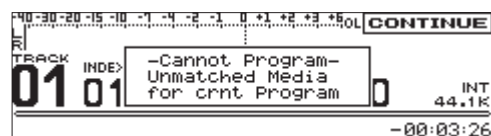
メモ

CDとCFカードをまたいでプログラムする場合は、BROWSE (ADD PROGRAM)画面を表示中にCD/CFボタンを押して、カレントデバイスを切り換えてください。この場合、CDとCFカードをまたいでプログラム可能なのは、各デバイス1枚ずつ（1対1）です。

10. 手順6.~9.を繰り返して、希望のトラックを順次、プログラムに登録します。
画面には、プログラム番号とトータル時間が表示されます。

メモ

- 同じトラックを繰り返しプログラムすることも可能です。
- プログラムは最大99トラックまでとなります。100トラック以上をプログラムしようとする、警告メッセージ“PROGRAM FULL”がポップアップ表示されます。
- プログラムしたトラックの総再生時間が99時間59分59秒を超えると、“-:-:-:-:-”と表示されます。
- すでにプログラムされているメディアとは異なるメディアでプログラム登録をしようするとポップアップメッセージ“-Cannot Program-”が表示され、プログラム登録を行うことができません。



11. プログラムの設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

12. MONITORボタンまたはPLAYボタンを押して、プログラム再生を始めます。

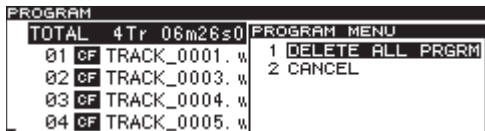
メモ

- “PROGRAM”（プログラム再生モード）では、トラックが一つもプログラム登録されていないときは、“CONTINUE”再生（連続再生モード）に切り換わり再生します。
- プログラム設定は、電源をオフにしても保持されます。
- プログラムされたメディアとは異なるメディアが挿入されている状態でプログラム再生を行おうとするとポップアップメッセージ“-Can'tPlayProgram-”が表示され、再生を行うことができません。



プログラム全体を削除する

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
3. “PROGRAM EDIT”項目を選択（反転表示）します。
4. DATAダイヤルを押して、“PROGRAM”画面を表示します。
5. DATAダイヤルを回して“TOTAL”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“PROGRAM MENU”を表示します。
6. DATAダイヤルを回して、“DELETE ALL PRGRM”項目を選択（反転表示）します。



7. DATAダイヤルを押すと、プログラム全体を消去します。
消去を実施すると、“PROGRAM”画面に戻り“TOTAL 0Tr 00m00s00f”と表示されます。

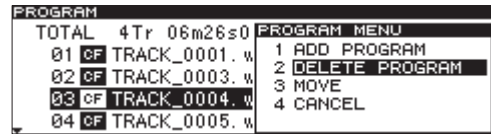


8. HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

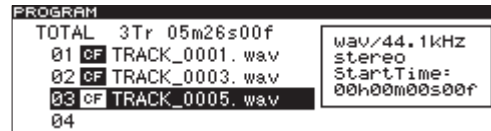
プログラムを削除する

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
3. “PROGRAM EDIT”項目を選択（反転表示）します。
4. DATAダイヤルを押して、“PROGRAM”画面を表示します。
5. DATAダイヤルを回して削除するトラックを選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“PROGRAM MENU”を表示します。

6. DATAダイヤルを回して、“DELETE PROGRAM”項目を選択（反転表示）します。



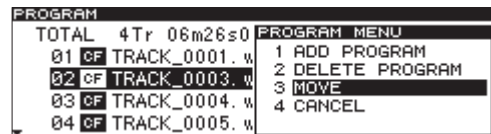
7. DATAダイヤルを押すと、選択（反転表示）したトラックを消去します。
消去を実施すると、“PROGRAM”画面に戻ります。



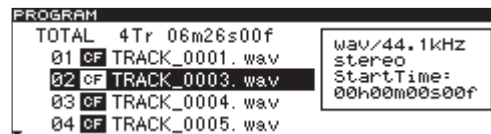
8. HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

プログラムトラックを移動する

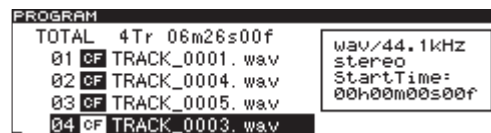
1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
3. “PROGRAM EDIT”項目を選択（反転表示）します。
4. DATAダイヤルを押して、“PROGRAM”画面を表示します。
5. DATAダイヤルを回して移動対象トラックを選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“PROGRAM MENU”を表示します。
6. DATAダイヤルを回して、“MOVE”項目を選択（反転表示）します。



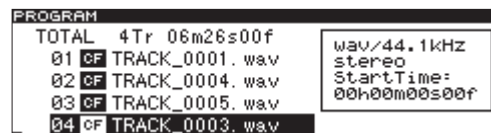
7. DATAダイヤルを押すと、移動対象トラックが点滅します。



8. DATAダイヤルを回して、移動対象トラックを希望の位置に移動します。



9. DATAダイヤルを押して、移動する位置を確定します。
移動が確定すると、“PROGRAM”画面に戻ります。



10. HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

プログラムをインポートする

1. CFカードスロットにプログラムリストの入ったCFカードを挿入します。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
4. “PROGRAM IMPORT”項目を選択（反転表示）します。



5. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



6. 再度、DATAダイヤルを押すと、プログラムのインポートを開始します。
7. プログラムのインポートが終了すると、ポップアップ表示が消えて“PROGRAM / CUE”メニュー画面に戻ります。
8. 本体のHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

プログラムをエクスポートする

1. CFカードスロットにプログラムリストをエクスポートして保存するCFカードを挿入します。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
4. “PROGRAM EXPORT”項目を選択（反転表示）します。



5. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



6. 再度、DATAダイヤルを押すと、プログラムのエクスポートを開始します。
7. プログラムのエクスポートが終了すると、ポップアップ表示が消えて“PROGRAM / CUE”メニュー画面に戻ります。
8. 本体のHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

キューポイント再生

あらかじめキューポイントを設定しておくことで、ポイントロケート、ポイントからの再生などが可能です。
CDはディスク1枚あたり9箇所、最大ディスク500枚分のキューポイントをメモリー可能です。CFカードは、1枚あたり9箇所のキューポイントをカード自身にメモリー可能です。

キューメニューの操作

“CUE LIST EDIT”項目を選択中（反転表示中）にDATAダイヤルを押すと、“CUE”画面（キューリスト）を表示します。希望の項目を選択しDATAダイヤルを押すと、“CUE MENU”をポップアップ表示します。

ADD CUE

現在のキューポイントにキューポイントを追加します。

DELETE ALL CUE

登録したキューリストのすべてのキューポイントを削除します。

DELETE CUE

選択（反転表示）したキューポイントを削除します。

EDIT CUE TITLE

“EDIT CUE TITLE”画面が表示され、選択（反転表示）したキューポイントの名前を編集します。（→ 32ページ「キューポイントの名前を編集する」）

CANCEL

“CUE MENU”に関する操作をキャンセルし、“CUE MENU”を閉じて“CUE”画面に戻ります。

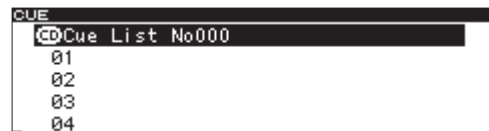
キューポイントを追加する

以下の手順でキューポイントを設定することができます。

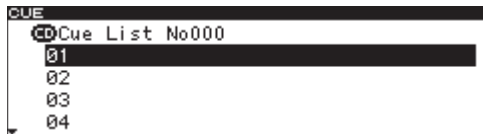
1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
3. “CUE LIST EDIT”項目を選択（反転表示）します。



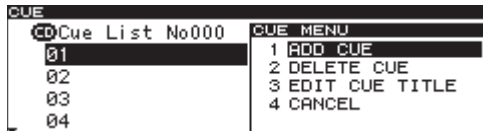
4. DATAダイヤルを押して、“CUE”リスト画面を表示します。



- DATAダイヤルを回して追加するキューポイント番号を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“CUE MENU”を表示します。



- DATAダイヤルを回して、“ADD CUE”項目を選択（反転表示）します。



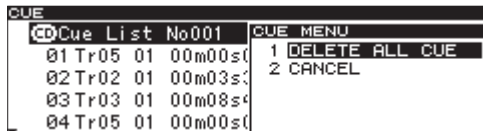
- DATAダイヤルを押して、キューポイントを追加します。
キューリストに、現在再生中もしくは再生待機中のトラックと時間がキューポイントとして追加登録されます。
- 手順5.~7.を繰り返して、希望のキューポイントを登録します。
画面には、トラック番号とキューポイント時間が表示されます。
- キューポイントの設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

CUE設定は、電源をオフにしても保持されます。

キューリスト内のキューポイントすべてを削除する

- MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
- “CUE LIST EDIT”項目を選択（反転表示）します。
- DATAダイヤルを押して、“CUE”画面を表示します。
- DATAダイヤルを回して“Cue List”項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“CUE MENU”を表示します。
- DATAダイヤルを回して、“DELETE ALL CUE”項目を選択（反転表示）します。



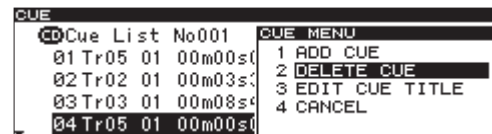
- DATAダイヤルを押すと、キューリスト内のキューポイントすべてを消去します。
消去を実施すると、“CUE”リスト画面に戻ります。



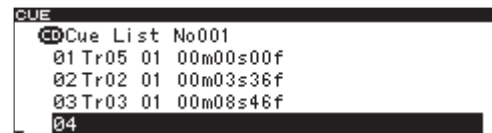
- HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

キューポイントを削除する

- MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
- “CUE LIST EDIT”項目を選択（反転表示）します。
- DATAダイヤルを押して、“CUE”リスト画面を表示します。
- DATAダイヤルを回して削除するキューポイントを選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“CUE MENU”を表示します。
- DATAダイヤルを回して、“DELETE CUE”項目を選択（反転表示）します。



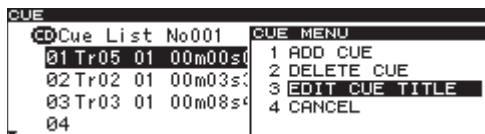
- DATAダイヤルを押すと、選択（反転表示）したキューポイントを消去します。
消去を実施すると、“CUE”リスト画面に戻ります。



- HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

キューポイントの名前を編集する

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
3. “CUE LIST EDIT”項目を選択（反転表示）します。
4. DATAダイヤルを押して、“CUE”画面を表示します。
5. DATAダイヤルを回して名前を編集するキューポイントを選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押して“CUE MENU”を表示します。
6. DATAダイヤルを回して、“EDIT CUE TITLE”項目を選択（反転表示）します。



7. DATAダイヤルを押して、“EDIT CUE TITLE”画面を表示します。



8. 名前を編集します。キューポイント名の編集方法については、32ページ「文字の設定方法」と同じです。
9. 名前の編集が終了したら、BROWSEボタンを押して、名前を確定します。
キューポイント名を編集後、“CUE”リスト画面に戻ります。

注意

- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。
¥ / : ; , * ? " < > |
- キューポイント名の文字数は、6文字（半角）までです。

メモ

パソコン用USBキーボードを、本機リアパネルのKEYBOARD端子に接続することにより、キーボードを使って名前を編集することができます。（→ 48ページ「第9章 コンピューターキーボードを使った操作」）

文字の設定方法

以下の操作で文字列を編集します。

編集位置（カーソル位置）を移動するには：

本体のSEARCH ◀◀ / ▶▶ ボタンを押します。

カーソル位置の文字を変更するには：

DATAダイヤルを回します。

カーソル位置の文字を確定するには：

DATAダイヤルを押します。

1文字分の空白（スペース）を空けるには：

TRACK ▶▶ ボタンを押します。

文字を削除するには：

TRACK ◀◀ ボタンを押します。

文字の編集を確定するには：

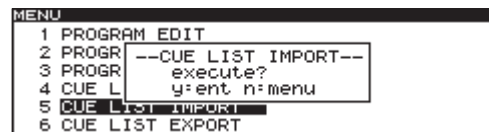
BROWSEボタンを押します。

キューリストをインポートする

1. CFカードスロットにキューリストの入ったCFカードを挿入します。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
4. “CUE LIST IMPORT”項目を選択（反転表示）します。



5. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



6. 再度、DATAダイヤルを押すと、キューリストのインポートを開始します。
7. キューリストのインポートが終了すると、ポップアップ表示が消えて“PROGRAM / CUE”メニュー画面に戻ります。
8. 本体のHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

キューリストをエクスポートする

1. CFカードスロットにキューリストをエクスポートして保存するCFカードを挿入します。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
4. “CUE LIST EXPORT”項目を選択（反転表示）します。



5. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



6. 再度、DATAダイヤルを押すと、キューリストのエクスポートを開始します。
7. キューリストのエクスポートが終了すると、ポップアップ表示が消えて“PROGRAM / CUE”メニュー画面に戻ります。
8. 本体のHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

キューポイントのロード設定

通常キューポイントは、その登録したディスクが再ロードされると前回登録したキューポイントが自動的にロードされますが、オペレーターによっては同じディスクに対して登録されたキューポイントが不必要な場合もあります。

登録したキューポイントのロードの有無を設定することができます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “PROGRAM / CUE”メニュー画面を表示します。
3. “CUE POINT LOAD”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルを右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。

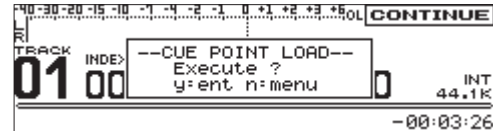


5. DATAダイヤルを回して、登録したキューポイントのロード動作を設定します。

LOAD(初期値):自動的に前回登録されたキューポイント
をロードする

UNLOAD: 前回登録されたキューポイントをロードしない

SELECT: 電源オンの度に“LOAD”として動作するか
“UNLOAD”として動作するか毎回ポップアップが表示され
設定します。設定した内容は電源を切るまで有効です。



[“SELECT” を設定した場合に表示される起動時のポップアップ]

6. 再度、DATAダイヤルを押すと、キューリストのロード動作を設定し、“PROGRAM / CUE”メニュー画面に戻ります。
7. 本体のHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

設定で“UNLOAD”、もしくは“SELECT”で“UNLOAD”を選択した場合は、次のような動作になります。

- 新たに登録されたキューポイントは、本体には保存されません。
- デバイスの切り換えが行われた時には、登録したキューポイントはクリアされます。
- メニューによって設定値を切り換えられても (LOAD⇔UNLOAD)、有効になるのは再起動後です (UNLOAD→LOADに変更してもキューリストの再読み込みは行われません)。
- UNLOAD設定でキューポイントを本体で登録してキューリストをエクスポートした場合、その登録ポイントはエクスポートされません (以前にLOAD設定時に登録されたキューポイントがあればそのポイントがエクスポートされます)。

第6章 ファイルやフォルダーの操作 (BROWSE画面)

本機は、CFカード上のオーディオファイルをフォルダー構造で管理することができます。また、WAVファイルを記録したデータCDをフォルダー構造で管理することができます。

この画面から操作対象のフォルダーまたはファイルを選択し、ファイルまたはフォルダーの“BROWSE”画面に入ることができます。CFカードの場合、これらの画面からフォルダーの作成、フォルダーやファイルの名前編集と削除などを行うことができます。

メモ

WAVファイルを記録した未ファイナライズのデータCDの場合は、使用できません。

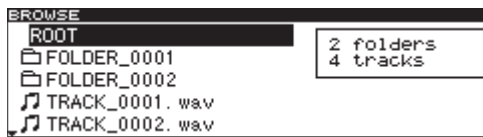
ヒント

カードリーダーなどを使ってパソコンからCFカードの内容を読み込むことにより、フォルダー構成の変更、フォルダー名/ファイル名の編集、フォルダー/ファイルの削除などをパソコンから行うことができます。パソコンでの編集を行った場合、本機のファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。

BROWSE画面を開く

以下の操作は、CFカードにWAVファイルを記録したCFカードがセットされ、カレントデバイスに“CF”が選択されていることを前提としています。

停止中/再生待機中/再生中にBROWSEボタンを押すと、“BROWSE”画面が表示されます。



- 再生待機中、カレントファイル（現在選択中のファイル）が属するフォルダーの“BROWSE”画面が表示されます。このとき、カレントファイルが反転表示しています。

BROWSE画面内のナビゲーション

“BROWSE”画面には、パソコンにおけるファイルリスト表示のように、フォルダーや音楽ファイルがフォルダーごとに一覧で表示されます。

“BROWSE”画面が表示されているとき、DATAダイヤルを使って、操作対象のフォルダーやファイルを選択（反転表示）します。

- DATAダイヤルを押して、ファイルやフォルダーの“BROWSE MENU”をポップアップ表示します。（→ 35ページ「ファイルの操作」）（→ 35ページ「フォルダーの操作」）
- “BROWSE MENU”表示中にBROWSEボタンを押すと、“BROWSE MENU”を閉じることができます。
- フォルダーやファイル選択中にBROWSEボタンを押すと、フォルダー名やファイル名をスクロール表示します。
- “BROWSE”画面を表示中にHOMEボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）にPLAYボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルやフォルダーが再生されます。

- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）にSTANDBYボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルやフォルダーの先頭で再生待機となります。

BROWSE画面内のアイコン表示

以下に“BROWSE”画面内のアイコン表示を説明します。

フォルダー (📁)

フォルダーは、このアイコンで表示します。

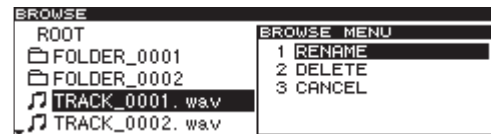
オーディオファイル (🎵)

音楽ファイルは、“🎵”のあとにファイル名が表示されます。

CD-TEXTの場合は、トラックタイトルが表示されます。

ファイルの操作

“BROWSE”画面内の希望のオーディオファイルを選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押すと、ファイルの“BROWSE MENU”をポップアップ表示します。



DATAダイヤルを回して希望の項目を選択（反転表示）し、DATAダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

RENAME

“RENAME”画面が表示され、選択（反転表示）したファイル名を編集します。（→ 36ページ「ファイル名を編集する（CFカードのみ）」）

DELETE

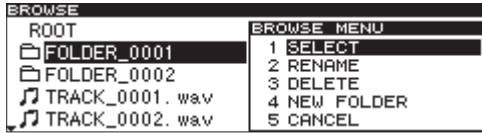
選択（反転表示）したファイルを削除します。（→ 37ページ「フォルダーやファイルを削除する（CFカードのみ）」）

CANCEL

選択中（反転表示中）のファイルに関する操作をキャンセルし、ファイルの“BROWSE MENU”を閉じて、“BROWSE”画面に戻ります。

フォルダーの操作

“BROWSE”画面内の希望のフォルダーを選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを押すと、フォルダーの“BROWSE MENU”をポップアップ表示します。



DATAダイヤルを回して希望の項目を選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

メモ

CFカードの場合は、“BROWSE MENU”のすべての機能を実行することができます。
WAVファイルを記録したデータCDの場合は、一部の機能を実行することができます。

SELECT

選択中 (反転表示中) のフォルダーを開きます。

RENAME (CFカード)

“RENAME”画面が表示され、選択 (反転表示) したフォルダー名を編集します。(→ 36ページ「フォルダー名を編集する (CFカードのみ)」)

DELETE (CFカード)

選択 (反転表示) したフォルダーを削除します。(→ 37ページ「フォルダーやファイルを削除する (CFカードのみ)」)

NEW FOLDER (CFカード)

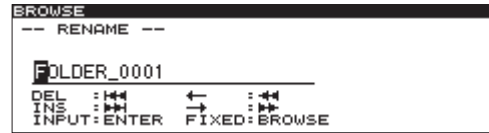
新しいフォルダーを作ります。(→ 37ページ「新しいフォルダーを作成する (CFカードのみ)」)

CANCEL

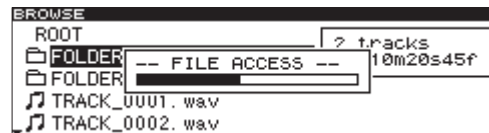
選択中 (反転表示中) のフォルダーに関する操作をキャンセルし、フォルダーの“BROWSE MENU”を閉じて、“BROWSE”画面に戻ります。

フォルダー名を編集する (CFカードのみ)

1. 名前を編集するフォルダーを選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを回して、“RENAME”項目を選択 (反転表示) します。
2. DATAダイヤルを押して、“RENAME”画面 (名前編集画面) を表示します。



3. フォルダー名を編集します。フォルダー名の編集方法については、32ページ「文字の設定方法」と同じです。
4. フォルダー名の編集が終了したら、BROWSEボタンを押して名前を確定します。
“-- FILE ACCESS --” およびプログレスバーがポップアップ表示され、フォルダー名が編集されます。



フォルダー名を編集後、“BROWSE”画面に戻ります。

メモ

- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません (“RENAME”時に登録済みの名前が表示されません)。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。
¥ / : ; , * ? " < > |
- 編集できるフォルダー名は52文字 (半角) までです。なお、システムの制約上 “BROWSE”画面内のフルパスで255文字を超えることはできません。たとえばサブフォルダー内のファイルやフォルダーの場合は、上位フォルダーの文字数分と仕切り文字に使われる¥マークを含めて255文字までとなります。
- パソコン用USBキーボードを、本機リアパネルのKEYBOARD端子に接続することにより、キーボードを使って名前を編集することができます。(→ 48ページ「第9章 コンピューターキーボードを使った操作」)

ファイル名を編集する (CFカードのみ)

1. 名前を編集するファイルを選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを回して、“RENAME” 項目を選択 (反転表示) します。
2. DATAダイヤルを押して、“RENAME” 画面 (名前編集画面) を表示します。



3. ファイル名を編集します。ファイル名の編集方法については、32ページ「文字の設定方法」と同じです。
4. ファイル名の編集が終了したら、BROWSEボタンを押して名前を確定します。
“-- FILE ACCESS --” およびプログレスバーがポップアップ表示され、ファイル名が編集されます。



ファイル名を編集後、“BROWSE” 画面に戻ります。

注意

- CFカードをパソコンに直接セットして、パソコンからファイル名を編集することもできますが、パソコン上でファイル名の編集を行った場合は、本機のファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。
- 上記操作でファイル名を変更した場合、文字コード順にファイルの並びが変わり、再生順が変わる場合があります。
- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません (“RENAME” 時に登録済みの名前が表示されません)。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。
¥ / : ; , * ? " < > |
- 編集できるファイル名は52文字 (半角) までです。なお、システムの制約上 “BROWSE” 画面内のフルパスで255文字を超えることはできません。たとえばサブフォルダー内のファイルやフォルダーの場合は、上位フォルダーの文字数分と仕切り文字に使われる¥マークを含めて255文字までとなります。

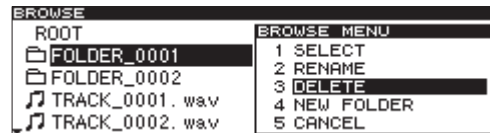
メモ

パソコン用USBキーボードを、本機リアパネルのKEYBOARD端子に接続することにより、キーボードを使って名前を編集することができます。(→ 48ページ「第9章 コンピューターキーボードを使った操作」)

フォルダーやファイルを削除する (CFカードのみ)

フォルダーやファイルをCFカードから削除することができます。フォルダーを削除すると、その中に含まれるファイルも削除されます。

1. 削除したいフォルダーやファイルを選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを回して、“DELETE” 項目を選択 (反転表示) します。

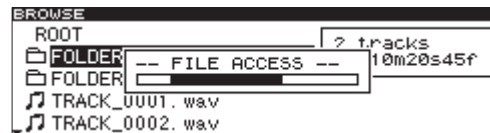


2. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



削除を中止するには、MENUボタンを押します。

3. DATAダイヤルを押すと、CFカードから削除 (DELETE) を行います。
取り消し中は、“-- FILE ACCESS --” およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



削除が終了すると、“BROWSE” 画面に戻ります。

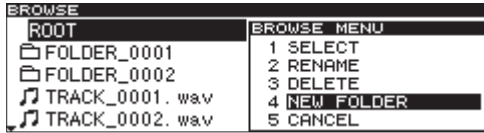
メモ

プログラム登録されているファイルを削除しようとする時、削除の確認メッセージが “P.LIST Registered DELETE Execute?” という内容で表示されます。



新しいフォルダーを作成する(CFカードのみ)

1. 新規にフォルダーを作成する希望のフォルダーを選択 (反転表示) し、DATAダイヤルを回して “NEW FOLDER” 項目を選択 (反転表示) します。



2. DATAダイヤルを押して、“NEW FOLDER” 画面を表示します。



3. フォルダー名を入力します。フォルダー名の入力方法については、32ページ「文字の設定方法」と同じです。
4. フォルダー名の入力終了したら、BROWSEボタンを押して名前を確定します。
“-- FILE ACCESS --” およびプログレスバーがポップアップ表示され、新規フォルダーが作成されます。



作成後、“BROWSE” 画面に戻ります。

メモ

- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を登録することはできません (“RENAME” 時に登録済みの名前が表示されません)。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。
¥ / : ; , * ? " < > |
- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を登録することはできません (“RENAME” 時に登録済みの名前が表示されません)。
- 編集できるフォルダー名は52文字 (半角) までです。なお、システムの制約上 “BROWSE” 画面内のフルパスで255文字を超えることはできません。たとえばサブフォルダー内のファイルやフォルダーの場合は、上位フォルダーの文字数分と仕切り文字に使われる¥マークを含めて255文字までとなります。
- 一つのCFカード上で認識できる最大フォルダー数は、255です。
- 2GB以下のCFカードをご使用の場合、ファイルシステムの制限により、ルートフォルダーに作成できるフォルダーは255個よりももっと少ない場合があります。サブフォルダーには、合わせて最大255個までフォルダーを作成することができます。
- パソコン用USBキーボードを、本機リアパネルのKEYBOARD端子に接続することにより、キーボードを使って名前を編集することができます。(→ 48ページ「第9章 コンピューターキーボードを使った操作」)

CF / データCDのファイルとフォルダーについて

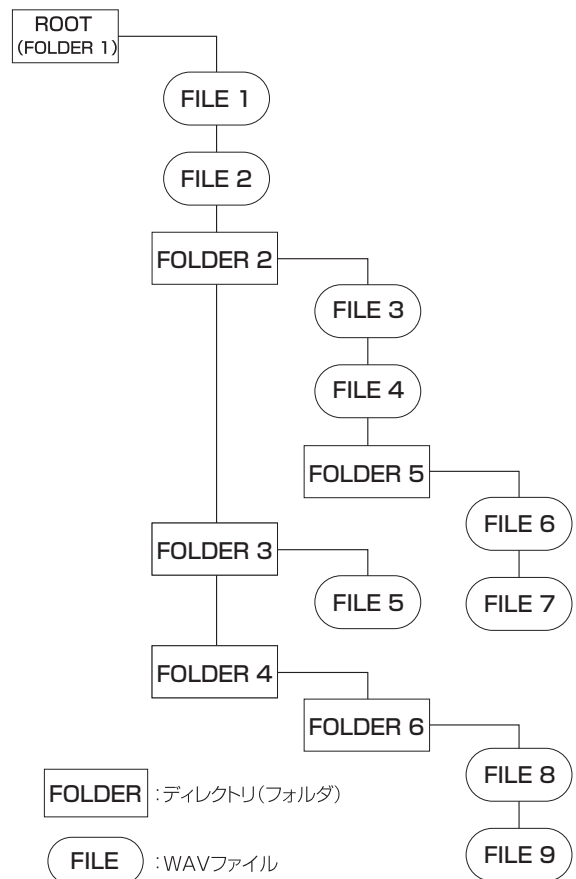
CF / データCDの中には、通常のパソコンのファイルの扱いと同じようにファイルをフォルダーに収納しているものがあります。さらに、いくつかのフォルダーをまとめて1つのフォルダーに収めるといった、複数階層構造のものもあります。

本機では、各フォルダーにフォルダー番号を付けて管理します。

フォルダー番号は、階層の浅いフォルダーから階層の深いフォルダー (サブフォルダー) に向かってゆく方向で割り当てられます。CF / データCDのルートにオーディオファイルがある場合は、ルートも1つのフォルダーとして扱います。また、各オーディオファイルにはファイル番号を付けて管理します。

ファイル番号は、フォルダー番号の若いフォルダー内のファイルから順に割り当てられます。

CF / データCDを通常再生すると、オーディオCDと同じようにファイル番号順に再生されます。



〈データCDの構成例〉

第7章 CFカードの管理

CFカードをクイックフォーマットする

“**FORMAT (Quick)**” 項目で、CFカードをクイックフォーマットします。

クイックフォーマットを行うと、カード上のすべてのファイルが消去されます。

1. CD/CFボタンを押して、**CF**デバイスを選択します。
CD/CFボタン上部の**CF**インジケータを点灯させます。
2. MENUボタンを押して、“**MENU**” 画面を表示します。
3. “**CF**” メニュー画面を表示します。
4. “**FORMAT (Quick)**” 項目を選択（反転表示）します。

```
MENU
1 FORMAT (Quick)
2 FORMAT (Full)
3 RIP CD
```

5. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。

```
MENU
1 FORMAT (Quick)
2 FORMA      --FORMAT--
3 RIP C      Execute ?
              y:ent n:menu
```

6. 再度、DATAダイヤルを押すと、フォーマットが開始します。
フォーマット実行中は、“**--FORMAT--**” およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
7. フォーマットが終了すると、ポップアップ表示が消えてホーム画面に戻ります。

CFカードをフルフォーマットする

“**FORMAT (Full)**” 項目で、CFカードをフルフォーマットします。フルフォーマットを行うと、カード上のすべてのファイルが消去されます。

フルフォーマットでは、メモリーのエラーをチェックしながらフォーマットを実行するため、クイックフォーマットと比べて多くの時間がかかります。

1. CD/CFボタンを押して、**CF**デバイスを選択します。
CD/CFボタン上部の**CF**インジケータを点灯させます。
2. MENUボタンを押して、“**MENU**” 画面を表示します。
3. “**CF**” メニュー画面を表示します。
4. “**FORMAT (Full)**” 項目を選択（反転表示）します。

```
MENU
1 FORMAT (Quick)
2 FORMAT (Full)
3 RIP CD
```

5. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。

```
MENU
1 FORMAT (Quick)
2 FORMA      --FORMAT--
3 RIP C      Execute ?
              y:ent n:menu
```

6. 再度、DATAダイヤルを押すと、フォーマットが開始します。
フォーマット実行中は、“**--FORMAT--**” およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
7. フォーマットが終了すると、ポップアップ表示が消えてホーム画面に戻ります。

オーディオCDのトラックをCFカードに変換コピーする

オーディオCDをCFカードにリッピング（変換コピー）することができます。WAVファイルに変換されて書き込まれます。以下の手順は、カレントデバイスが“CD”に設定され、コピー元のファイルを含むCDおよびコピー先の選択したデバイスのメディアが本機にセットされていることを前提にしています。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “CF”メニュー画面を表示します。
3. “RIP CD”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押します。
“--MEDIA READING--” およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



メモ

CFカードがセットされていない場合は、“MEDIA READING”後に“--ERROR--”と“CF READ”がポップアップ表示されます。

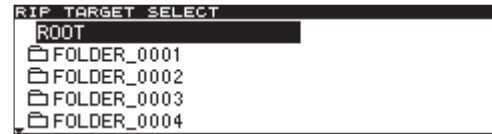
5. CFカードの読み込みが完了すると、“RIP SOURCE SELECT”画面（ソース選択画面）を表示します。



6. DATAダイヤルを回して、コピーするトラック（ソース）を選択（反転表示）します。
“CD-DA DISC”の部分を選択するとディスク全体をソースとして選択できます。
画面右上部に、CFカードの現在の残量が表示されます。



7. コピーする希望トラックを選択したら、DATAダイヤルを押して、選択を確定します。
書き込み先（ターゲット）選択を行うための“RIP TARGET SELECT”画面が表示されます。



メモ

ソース容量がCFカードの残り容量を超えたり、ソーストラック数がCFカードのファイル数制限を超えると、それぞれ“CAPACITY OVER”、“TRACK FULL”がポップアップ表示され、次の手順8.を受け付けません。

8. 書き込み先（ターゲット）を“RIP TARGET SELECT”画面内でDATAダイヤルを回して選択します。
フォルダーを選択しDATAダイヤルを押すと、そのフォルダー内に移動できます。
DATAダイヤルを回し“-RIP HERE-”と表示されると1行目に表示されているフォルダーへの書き込みが選択されます。



9. “-RIP HERE-”と表示された状態でDATAダイヤルを押して、コピー先を確定します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



10. 再度、DATAダイヤルを押します。
CFカードに書き込みを開始します。
実行中は、“-- RIPPING --” およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



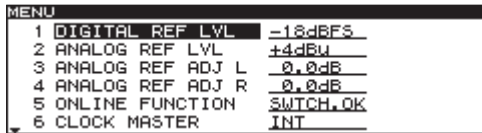
書き込みが終了すると、“CD”メニュー画面に戻ります。

第8章 各種設定および情報表示

デジタルリファレンスレベルの設定

ヘッドルーム（アナログ出力のリファレンスレベルを、最大レベル（フルビット）から何dB下がったところにするか）を設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “DIGITAL REF LVL”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、デジタルリファレンスレベルを設定します。
選択肢：“-20dBFS”、“-18dBFS”（初期値）、“-16dBFS”、“-14dBFS”、“-9dBFS”
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

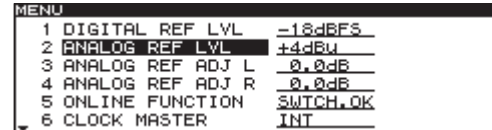
メモ

デジタルリファレンスレベルの設定は、電源をオフにしても保持されます。

アナログリファレンスレベルの設定

アナログ出力のリファレンスレベルを設定します。
アナログオーディオ出力では、デジタル基準レベルのデジタル音声
がアナログ出力基準レベルのアナログ音声として出力されます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “ANALOG REF LVL”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、アナログリファレンスレベルを設定します。アナログリファレンスの設定値は、“DIGITAL REF LVL”項目の設定により、選択できる値が異なります。

DIGITAL REF LVLの設定値	ANALOG REF LVLの設定値
-9dBFS時	+6dBu固定
-9dBFS以外	-20dBu、+4dBu（初期値）

メモ

本設定は、LINE OUTPUTS端子についてのみ適用されます。

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

アナログリファレンスレベルの設定は、電源をオフにしても保持されます。

アナログリファレンスレベルを調節する

アナログ出力のリファレンスレベルを調節します。Lチャンネル、Rチャンネルのそれぞれ別々に調節することができます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “ANALOG REF ADJ L”項目または“ANALOG REF ADJ R”項目を選択（反転表示）します。

MENU	
1	DIGITAL REF LVL <u>-18dBFS</u>
2	ANALOG REF LVL <u>+4dBu</u>
3	ANALOG REF ADJ L <u>0.0dB</u>
4	ANALOG REF ADJ R <u>0.0dB</u>
5	ONLINE FUNCTION <u>SWTCH.OK</u>
6	CLOCK MASTER <u>INT</u>

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、アナログリファレンスレベルを調節します。

設定範囲：“-6.0dB” ~ “+6.0dB”

（初期値：“0dB”、“0.1dB”単位）

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- 本設定は、LINE OUTPUTS端子についてのみ適用されます。
- アナログリファレンスレベルの設定は、電源をオフにしても保持されます。

オンライン機能の設定

オンライン機能を設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “ONLINE FUNCTION”項目を選択（反転表示）します。

MENU	
3	ANALOG REF ADJ L <u>0.0dB</u>
4	ANALOG REF ADJ R <u>0.0dB</u>
5	ONLINE FUNCTION <u>SWTCH.OK</u>
6	CLOCK MASTER <u>INT</u>
7	MONO MIX <u>-6dB L+R</u>
8	METER TYPE <u>VU</u>

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、オンライン機能を設定します。

“SWTCH.OK”（初期値）：パラレルリモート端子、シリアルリモート端子、および別売の専用リモートコントロールユニット（TASCAM RC-9010 / RC-9010S）からのオンライン再生モードの切り換えが行えるようになります。本機単体の場合は、初期値のときにオンライン再生モードがオンの状態です。

“AlwaysON”：常にオンライン再生モードがオンになり、切り替えが行えなくなります。

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

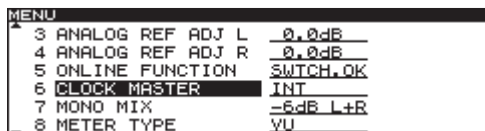
メモ

オンライン機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

マスタークロックの設定

使用するマスタークロックを設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “CLOCK MASTER”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、マスタークロックを設定します。
 INT（初期値）：本機の内部クロックを使用します。
 EXT：WORD SYNC IN端子に入力されるワードクロックに同期します。
 44.1K FIX：ファイルのサンプリング周波数にかかわらず、デジタル出力を常に44.1kHzのサンプリング周波数で出力します。
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- マスタークロックの設定は、電源をオフにしても保持されます。
- マスタークロックの設定と再生ファイルのサンプリング周波数の組み合わせによって、デジタル出力されるサンプリング周波数が異なります。（下記「マスタークロックとデジタル出力の組み合わせについて」）

マスタークロックとデジタル出力の組み合わせについて

使用するマスタークロックの設定と再生ファイルのサンプリング周波数の組み合わせによって、デジタル出力されるサンプリング周波数が異なります。詳細は、以下の表に示します。

マスタークロック	マスタークロックの設定	再生ファイルのサンプリング周波数	SRC機能（自動切換）	デジタル出力のサンプリング周波数	内容
内部クロック	INT	44.1kHz	オフ	44.1kHz	システムすべてが内部クロック・44.1kで動作
	44.1kHz FIX	44.1kHz	オフ	44.1kHz	常にデジタル出力をFs44.1kHzにするモード用
	44.1kHz FIX	48kHz	オン	44.1kHz	常にデジタル出力をFs44.1kHzにするモード用
	INT	48kHz	オフ	48kHz	システムすべてが内部クロック・48kHzで動作
外部クロック（44.1kHz）	EXT	44.1kHz	オフ	44.1kHz	システムすべてが外部クロック・44.1kHzで動作
外部クロック（48kHz）	EXT	44.1kHz	オン	48kHz	外部クロック・48kHzに同期しつつ、システムが内部クロック44.1kHzで動作するモード
	EXT	48kHz	オフ	48kHz	システムすべてが外部クロック・48kHzで動作

メモ

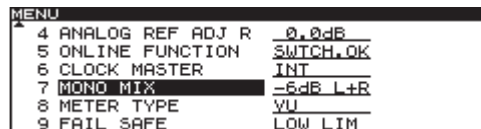
- サンプリングレートコンバーター（SRC）機能のオン/オフは、自動で切り換えられます。
- 外部クロック・48kHzに同期中に途中でクロックが途切れた場合は、内部クロックに戻してサンプリングレートコンバーター（SRC）機能をオンにし48kHzの出力を継続することができます。

モノラルミックスの設定

本体のSTEREO / MONOボタンにより各オーディオ出力端子からの出力方式をモノラルに切り換えた際に出力されるモノラルミックスの方式を設定します。

設定状態は、レベルメーター左部に表示されます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “MONO MIX”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、モノミックスを設定します。
 -6dB L+R（初期値）：ステレオオーディオトラックLおよびRチャンネルの音声を-6dB減衰して加算出力します。
 -3dB L+R：ステレオオーディオトラックLおよびRチャンネルの音声を-3dB減衰して加算出力します。
 L Mono：ステレオオーディオトラックLチャンネルの音声をL、R両チャンネルに出力します。
 R Mono：ステレオオーディオトラックRチャンネルの音声をL、R両チャンネルに出力します。
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

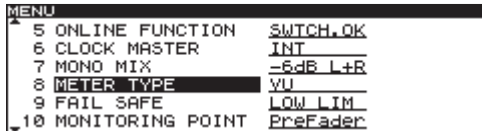
メモ

モノラルミックスの設定は、電源をオフにしても保持されます。

レベルメーター表示方式の設定

ホーム画面の再生レベルメーターの表示方式を切り換えます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “METER TYPE”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。

5. DATAダイヤルを回して、レベルメーターの表示方式を設定します。

PEAK : ピークメーターで表示します。
 VU (初期値): VUメーターで表示します。

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

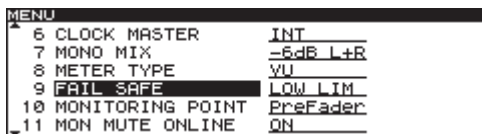
レベルメーターの表示方式の設定は、電源をオフにしても保持されます。

フェールセーフ機能の設定

フェールセーフ機能は、誤って操作ボタンに触れたときに動作をしないための安全機能です。

再生待機中、オンライン再生中の状態に関して、無効となるボタンを設定します。設定の詳細は、一覧表を参照してください。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “FAIL SAFE”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。

5. DATAダイヤルを回して、フェールセーフ機能を設定します。

選択肢: “LOW LIM” (初期値)、“UP LIM”、“OFF”

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

フェールセーフ機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

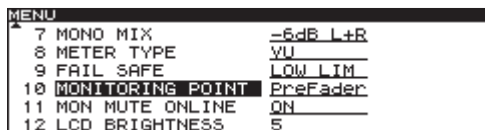
フェールセーフ機能の設定による無効なボタン一覧

フェールセーフ機能の設定項目	再生待機中に無効なボタン	オンライン再生中に無効なボタン
LOW LIM	なし	CD/CFボタン
		ST/MONOボタン
		BROWSEボタン
		PLAY MODEボタン
		MENUボタン
		ENTERボタン(DATAダイヤルを押す)
		OPEN/CLOSEボタン
		TRACK ◀◀ / ▶▶ ボタン
		SEARCH ◀◀ / ▶▶ ボタン
		MONITORボタン
UP LIM	CD/CFボタン	CD/CFボタン
	ST/MONOボタン	ST/MONOボタン
	BROWSEボタン	BROWSEボタン
	---	PLAY MODEボタン
	MENUボタン	MENUボタン
	ENTERボタン(DATAダイヤルを押す)	ENTERボタン(DATAダイヤルを押す)
	OPEN/CLOSEボタン	OPEN/CLOSEボタン
	---	STANDBYボタン
	TRACK ◀◀ / ▶▶ ボタン	TRACK ◀◀ / ▶▶ ボタン
	SEARCH ◀◀ / ▶▶ ボタン	SEARCH ◀◀ / ▶▶ ボタン
---	MONITORボタン	
OFF	なし	なし

モニタリングポイントの設定

モニター出力を、オンラインフェーダーの前後で切り換えます。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “MONITORING POINT”項目を選択（反転表示）します。



MENU	
7 MONO MIX	-6dB L+R
8 METER TYPE	VU
9 FAIL SAFE	LOW LIM
10 MONITORING POINT	PreFader
11 MON MUTE ONLINE	ON
12 LCD BRIGHTNESS	5

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、モニタリングポイントを設定します。
PreFader（初期値）：オンラインフェーダー前の信号をモニター出力します。
PstFader：オンラインフェーダー後の信号をモニター出力します。
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

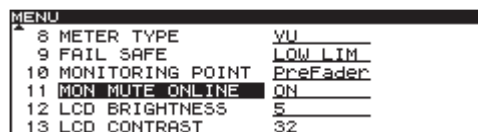
メモ

モニタリングポイントの設定は、電源をオフにしても保持されます。

モニターミュートバイオンラインの設定

オンライン再生時にモニター出力を自動的にミュートする機能をオン/オフします。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “MON MUTE ONLINE”項目を選択（反転表示）します。



MENU	
8 METER TYPE	VU
9 FAIL SAFE	LOW LIM
10 MONITORING POINT	PreFader
11 MON MUTE ONLINE	ON
12 LCD BRIGHTNESS	5
13 LCD CONTRAST	32

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、モニターミュートバイオンラインのオン/オフを設定します。
選択肢：“OFF”、“ON”（初期値）
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

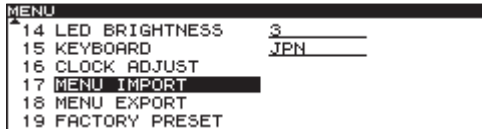
メモ

モニターミュートバイオンラインの設定は、電源をオフにしても保持されます。

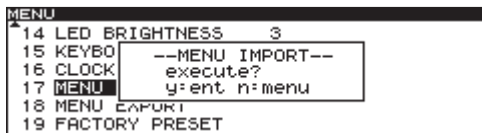
MENU画面内の設定をインポートする

CFカードに保存された“MENU”画面内の設定を呼び出し、その設定内容に本機の“MENU”画面の設定を変更します。

1. CFカードスロットに“MENU”画面内設定が保存されたカードを挿入します。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
4. “MENU IMPORT”項目を選択（反転表示）します。



5. DATAダイヤルを押します。
確認のポップアップメッセージを表示します。



6. 再度、DATAダイヤルを押すと、CFカードから“MENU”画面の設定値をインポートします。
7. MENU”画面の設定値のインポートが終了すると、ポップアップ表示が消えて“SYSTEM”メニュー画面に戻ります。
8. 本体のHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

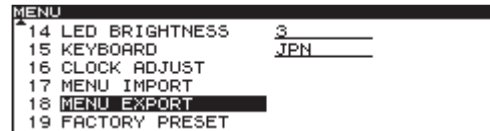
メモ

“SYSTEM”メニューの“LCD CONTRAST”項目、“LCD BRIGHTNESS”項目、“LED BRIGHTNESS”項目はインポート対象外です。

MENU画面内の設定をエクスポートする

本機の“MENU”画面内の設定を、CFカードに保存します。

1. CFカードスロットにカードを挿入します。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
4. “MENU EXPORT”項目を選択（反転表示）します。



5. DATAダイヤルを押して、確認のポップアップメッセージを表示します。



6. 再度、DATAダイヤルを押すと、CFカードに“MENU”画面の設定値をエクスポートします。
7. MENU”画面の設定値のエクスポートが終了すると、ポップアップ表示が消えて“SYSTEM”メニュー画面に戻ります。
8. 本体のHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

“SYSTEM”メニューの“LCD CONTRAST”項目、“LCD BRIGHTNESS”項目、“LED BRIGHTNESS”項目はエクスポート対象外です。

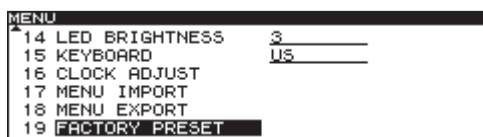
出荷時の設定に戻す

バックアップメモリーに保存されている各設定情報を工場出荷時の状態に戻すことができます。
以下のメニュー操作を行います。

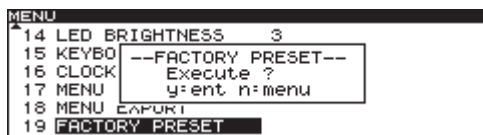
メモ

カレントデバイスにメディアがセットされている場合は、設定を戻すことができません。カレントデバイスを変更する、またはカレントデバイスのメディアを取り外してから、再度操作を行ってください。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “FACTORY PRESET”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押して、確認のポップアップメッセージを表示します。



5. 再度、DATAダイヤルを押します。
各設定情報が工場出荷時の設定に戻り、メッセージ“COMPLETE”がポップアップ表示されて消えます。
6. 自動的にホーム画面に戻ります。

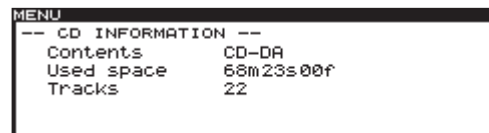
メディアの情報を見る

カレントデバイスのメディア情報を見ることができます。
以下のメニュー操作を行います。

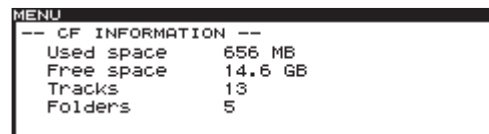
1. CD/CFボタンを押して、メディア情報を確認するデバイスを選択します。
CD/CFボタン上部のインジケーターを点灯させます。
2. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. “INFORMATION”メニュー画面を表示します。
4. “MEDIA INFO”項目を選択（反転表示）します。



5. DATAダイヤルを押します。
カレントデバイスのメディア情報が表示され、使用容量、空き容量などの使用状況を確認することができます。



[CD INFORMATION画面の表示例]



[CF INFORMATION画面の表示例]

6. 確認が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

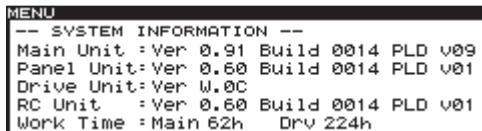
システムの情報を見る

システム情報を見ることができます。以下のメニュー操作を行います。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “INFORMATION”メニュー画面を表示します。
3. “SYSTEM INFO”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押します。
“SYSTEM INFORMATION”画面が表示され、システムバージョン情報、稼動時間を確認することができます。



5. 確認が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

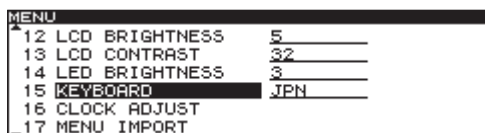
第9章 コンピューターキーボードを使った操作

パソコン用USBキーボードを、本機リアパネルのKEYBOARD端子に接続することにより、キーボードを使って名前の入力を実率的に行うことができます。

キーボードタイプの設定

接続するキーボードに合わせて、キーボードタイプを選択します。

1. MENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. “SYSTEM”メニュー画面を表示します。
3. “KEYBOARD”項目を選択（反転表示）します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、接続するキーボードタイプに合わせて“US”（英語対応キーボード）または“JPN”（日本語対応キーボード）に設定します。
選択肢：“US”、“JPN”（初期値）
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

キーボードタイプの設定は、電源をオフにしても保持されます。

キーボードを使って名前を入力する

パソコンの文字入力と同じ感覚で、フォルダー名、トラック名を編集／入力することができます。

名前を編集する画面（“RENAME”画面）を表示するには、“BROWSE”画面からファイルまたはフォルダーの“BROWSE MENU”を表示し“RENAME”項目を選択します。

入力する文字種を選択するには：

パソコンでの操作と同じように、ShiftキーとCaps Lockキーを使って入力する文字の種類を選択できます。

入力するには：

数字キー、文字キー、記号キーで直接入力します。

カーソルを移動するには：

↑ / ↓ / ← / → キーを使います。

文字を削除するには：

Deleteキー：カーソル位置の文字を削除します。

Back Spaceキー：カーソル手前の文字を削除します。

文字を挿入するには：

希望の位置でInsertキーを押します。

文字を修正するには：

カーソルに合わせて上書きします。

メモ

- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

¥ / ; , * ? " < > |

- カタカナ入力は、できません。

シリアル端子を使う

本機のREMOTE (SERIAL) 端子 (D-sub 15ピン、RS-232C準拠) を使って、別売の専用リモートコントローラー (TASCAM RC-9010 / RC-9010S)、または外部 (パソコンなど) から本機をシリアルコントロール制御することができます。

通信に関する設定は、メニューから行います。

フェーダー使用の設定

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のフェーダーを使用するかどうかを設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “REMOTE” メニュー画面を表示します。
3. “FADER MODE” 項目を選択 (反転表示) します。

MENU		
1	FADER MODE	DISABLE
2	FADER START MODE	DISABLE
3	FADER STOP MODE	DISABLE
4	FADER STOP ACT	STANDBY
5	FADER SCALE	0dB MAX
6	OPERATION PANEL	RC ONLY

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、フェーダーを使用するかどうかを設定します。

選択肢：“ENABLE” (有効)、“DISABLE” (無効、初期値)

メモ

“DISABLE” に設定した場合は、内部のフェーダーは0dB固定となります。

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

フェーダー使用の設定は、電源をオフにしても保持されます。

フェーダースタート機能の設定

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のフェーダースタート機能をオンにしたときに、フェーダースタート (再生待機状態のときにフェーダーを∞から上げたときに再生を開始する機能) を有効にするかどうかを設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “REMOTE” メニュー画面を表示します。
3. “FADER START MODE” 項目を選択 (反転表示) します。

MENU		
1	FADER MODE	DISABLE
2	FADER START MODE	DISABLE
3	FADER STOP MODE	DISABLE
4	FADER STOP ACT	STANDBY
5	FADER SCALE	0dB MAX
6	OPERATION PANEL	RC ONLY

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。

5. DATAダイヤルを回して、フェーダースタート機能を使用するかどうかを設定します。

選択肢：“ENABLE” (有効)、“DISABLE” (無効、初期値)

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

フェーダースタート機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

フェーダーストップ機能の設定

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のフェーダースタート機能をオンにしたときに、フェーダーストップ (再生中にフェーダーを∞に下げたときに再生待機状態などにする機能) を有効にするかどうかを設定します。

メモ

“FADER START MODE” 項目と “FADER STOP MODE” 項目の両方を “DISABLE” に設定したときには、別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のフェーダースタート機能が自動でオフになり、FADER STARTボタンのインジケーターが消灯します。このとき、別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のFADER STARTボタンを押すと、メッセージ “Can't Change Now,Fixed in crnt mode” がポップアップ表示されます。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “REMOTE” メニュー画面を表示します。
3. “FADER STOP MODE” 項目を選択 (反転表示) します。

MENU		
1	FADER MODE	DISABLE
2	FADER START MODE	DISABLE
3	FADER STOP MODE	DISABLE
4	FADER STOP ACT	STANDBY
5	FADER SCALE	0dB MAX
6	OPERATION PANEL	RC ONLY

4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、フェーダーストップ機能を使用するかどうかを設定します。

選択肢：“ENABLE” (有効)、“DISABLE” (無効、初期値)

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

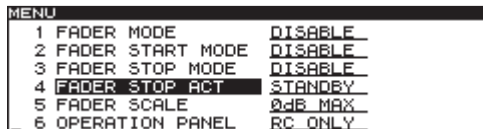
メモ

フェーダーストップ機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

フェーダーストップ機能時の動作モード設定

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のフェーダースタート機能をオンにしたとき、フェーダーストップ (再生中にフェーダーを∞に下げたとき) に移行する動作状態を設定します。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “REMOTE” メニュー画面を表示します。
3. “FADER STOP ACT” 項目を選択 (反転表示) します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、フェーダーストップ機能時の動作モードを設定します。
選択肢：“STOP” (停止)、“STANDBY” (再生待機、初期値)
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

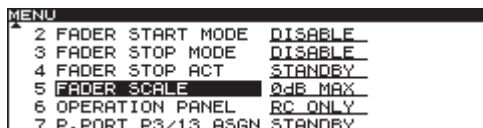
メモ

- “PLAY” メニュー画面の “MONITOR PLAY STBY” 項目または “ONLINE PLAY STBY” 項目の設定に従いBACK CUEの動作になることもあります。
- フェーダーストップ機能時の動作モード設定は、電源をオフにしても保持されます。

フェーダースケールの切り換え設定

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) のフェーダー左右に刻まれているスケールを選択します。左右どちらのスケールが有効かは、フェーダースケール上部のインジケータの点灯で表示します。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “REMOTE” メニュー画面を表示します。
3. “FADER SCALE” 項目を選択 (反転表示) します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、使用するフェーダースケールを設定します。
選択肢：“10dB MAX” (左側スケール)、
“0dB MAX” (右側スケール、初期値)

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

フェーダースケールの設定は、電源をオフにしても保持されます。

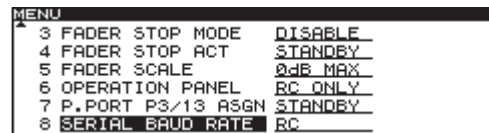
通信速度の設定

別売の専用リモートコントロールユニット (TASCAM RC-9010 / RC-9010S) の通信速度 (ボーレート) を設定します。

メモ

シリアル通信のその他の設定は、Data Length 8bit、Parity Bit Non、Stop Bit 1bit固定です。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “REMOTE” メニュー画面を表示します。
3. “SERIAL BAUD RATE” 項目を選択 (反転表示) します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、外部リモコンからピッチコントロール機能を使用するかどうかを設定します。
選択肢：“9600bps”、“19200bps”、“38400bps”、“RC” (別売のTASCAM RC-9010 / RC-9010S専用、初期値)
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

通信速度の設定は、電源をオフにしても保持されます。

パラレル端子を使う

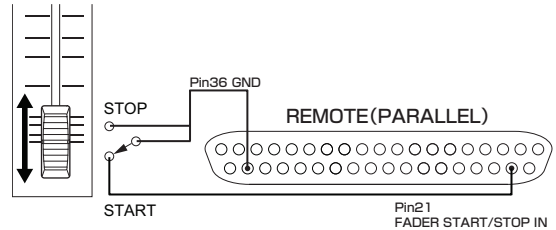
本機のREMOTE (PARALLEL) 端子を使って、外部のコントローラーから本機をパラレル制御することができます。
ピンアサインは、次の通りです。

ピン番号	機能	IN / OUT
1	ON LINE PLAY IN	IN
2	MONITOR PLAY IN	IN
3	STANDBY IN / PAUSE (JOG ON) IN**	IN
4	STANDBY IN	IN
5	STOP IN	IN
6	TRACK SEARCH REV IN [I◀◀]	IN
7	N.C	-
8	TRACK SEARCH FWD IN [▶▶I]	IN
9	SEARCH REV IN [◀◀]	IN
10	SEARCH FWD IN [▶▶]	IN
11	MONITOR PLAY TALLY	OUT
12	STANDBY TALLY	OUT
13	STANDBY TALLY / PAUSE (JOG ON) TALLY**	OUT
14	STOP TALLY	OUT
15	INDEX SEARCH REV IN [←]	IN
16	INDEX SEARCH FWD IN [→]	IN
17	ON LINE PLAY TALLY	OUT
18	CUE UP	IN
19	ON LINE IN	IN
20	EOM OUT	OUT
21	FADER START/STOP IN	IN
22	ON LINE TALLY	OUT
23	TEN KEY 0	IN
24	TEN KEY 1	IN
25	TEN KEY 2	IN
26	TEN KEY 3	IN
27	TEN KEY 4	IN
28	TEN KEY 5	IN
29	TEN KEY 6	IN
30	TEN KEY 7	IN
31	TEN KEY 8	IN
32	TEN KEY 9	IN
33	CD_TALLY	OUT
34	CF_TALLY	OUT
35	CUE UP_TALLY	OUT
36	GND	-
37	+5V*	-

In : 外部コマンド受信アクティブロー
(グラウンド50ms以上で動作)
Out : オープンコレクターによる、タリー出力
表示用信号 (耐圧50V、最大電流100mA)
* 最大供給電流100mA

** “REMOTE” メニュー画面の “P.PORT P3/13 ASGN” 項目の設定で、機能を選択することができます。(→ 51ページ「パラレルポートの3ピン / 13ピン機能の設定」)

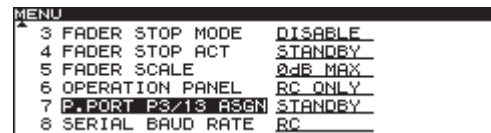
以下は、フェーダースタート/ストップによって、本機の再生をコントロールする場合の接続例です。



パラレルポートの3ピン / 13ピン機能の設定

本機のREMOTE (PARALLEL) 端子の3ピン / 13ピンの機能を選択することができます。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. “REMOTE” メニュー画面を表示します。
3. “P.PORT P3/13 ASGN” 項目を選択 (反転表示) します。



4. DATAダイヤルを押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択 (反転表示) 状態にします。
5. DATAダイヤルを回して、REMOTE (PARALLEL) 端子の3ピン / 13ピンの機能を設定します。

選択肢：“PAUSE”、“STANDBY” (初期値)

ピン番号	P.PORT P3/13 ASGN項目の設定	
	PAUSE	STANDBY
3	PAUSE (JOG ON) IN	STANDBY IN
13	PAUSE (JOG ON) TALLY	STANDBY TALLY

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

REMOTE (PARALLEL) 端子の3ピン / 13ピンの機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

第11章 メッセージ一覧

エラーメッセージ

以下のエラーメッセージがディスプレイにポップアップ表示されたときは、**DATA**ダイヤルを押して、メッセージ表示を閉じてから原因を解消してください。それでも改善しない場合は、お買い上げ店またはティアック修理センター（裏表紙）にご相談ください。

	1行目	2行目	内容
1	- error -	DECODE	WAVファイルの再生に失敗しました。
2	- error -	MIX DISC	WAV形式のファイルと、オーディオCD形式のファイルが混在したディスクです。
3	- error -	MEMORY READ	選択したデバイスのメディアがセットされていないため、リッピングが実行できません。
4	- error -	TRACK	ディスクに書き込まれたファイルが再生不可能なファイル形式のため、再生できません。
5	- error -	CF WRITE	CFカードへの書き込みに失敗しました。

警告メッセージ

操作を受け付けない場合は、以下のような警告メッセージをディスプレイにポップアップ表示します。警告メッセージは、約2秒間表示された後、自動的に消えます。

	1行目	2行目	内容
1	- caution -	MEDIA FULL	メディアの記録領域が不足しているため、リッピングができません。
2	- caution -	TRACK FULL	最大記録トラック数（999トラック）に達しているため、リッピングができません。
3	- caution -	NOT EXECUTE	編集の実行に失敗しました。
4	- caution -	CAN'T EDIT	システムの制限により編集ができません。
5	- caution -	CAN'T SELECT	システムの制限により選択／実行ができません。
6	- caution -	TRK PROTECT	保護されたトラックのため、編集ができません。
7	- caution -	NAME FULL	名前が最大文字数に達しています。
8	- caution -	PROGRAM FULL	プログラム内のトラック数が最大数に達しているため、登録できません。
9	- caution -	SAME NAME	名前が重複しています。

動作メッセージ

必要に応じてディスプレイの時間表示部に、以下のメッセージが表示されます。

	1行目	内容
1	CLOSE	ディスクトレイを閉じています。
2	DEVICE ERROR	デバイスが認識できません。サービスへお問い合わせください。
3	MEDIA ERROR	再生可能なメディアではありません。
4	MEDIA READING	メディア読み込み中です。
5	NO MEDIA	カレントデバイスのメディアが挿入されていません。
6	OPEN	ディスクトレイを開いています。
7	POWER ON	システムが起動初期化中です。
8	RIPPING	CDをCFカードにリッピング（変換コピー）中です。
9	UNKNOWN	FAT以外でファイル形式されたメディアです。本機で使用する場合は、フォーマットを行ってください。対応していないディスクです（DVD、ハイブリッドではないSACDなど）。オーディオCD、もしくはWAVファイルが記録されたデータCDをご使用ください。

第12章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。
それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（裏表紙）にご連絡ください。

● 電源が入らない。

↓

- 電源プラグなどがしっかりと差し込まれているか確認してください。

● メディアを認識しない。

↓

- CDやCFカードが正しく挿入されているか確認してください。
- 再生やリッピングを一度停止してください。

● 本体で操作できない。

↓

- パネルロック機能がオンになっていませんか？

● 再生できない。

↓

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数（44.1kHzまたは48kHz）と量子化ビット数（16 / 24ビット）であるかどうかを確認してください。

● 音が出ない。

↓

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。また、アンプの音量を確認してください。

● 設定を変えたのに記憶されていない。

↓

- 本機では、設定を変更するたびにバックアップを行っています。電源を切るタイミングによっては、バックアップを失敗してしまう場合がありますので、設定の変更直後に電源を切らないでください。

● 雑音がする。

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていないか、確認してください。

● 名前の編集時、“Name Full”が表示される。

↓

- 編集できるフォルダー名は52文字（半角）までです。なお、システムの制約上“BROWSE”画面内のフルパスで255文字を超えることはできません。たとえばサブフォルダー内のファイルやフォルダーの場合は、上位フォルダーの文字数分と仕切り文字に使われる¥マークを含めて255文字までとなります。

第13章 仕様

定格

対応メディア

CFカード (512MB~32GB、Type I のみ)
CD、CD-R (CD-DAオーディオディスク、ISO9660 Level1/
Joliet/Romeoデータディスク)

再生ファイル形式

WAV : 44.1k/48kHz、16/24ビット
(最大ファイルサイズ2GB)
CD-DA : 44.1kHz、16ビット

チャンネル数

2チャンネル (ステレオ)
1チャンネル (モノラル)

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

MIX INPUTS (BALANCED) 端子

コネクター : XLR-3-31
(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
入カインピーダンス : 10k Ω
規定入力レベル : +4dBu (1.23Vrms)
最大入力レベル : +24dBu (12.28Vrms)

LINE OUTPUTS (BALANCED) 端子

コネクター : XLR-3-32
(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
出カインピーダンス : 200 Ω
規定出力レベル : +4dBu (1.23Vrms)
最大出力レベル : +24dBu (12.28Vrms)

MONITOR OUTPUTS (BALANCED) 端子

コネクター : XLR-3-32
(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
出カインピーダンス : 200 Ω
規定出力レベル : +4dBu (1.23Vrms)
最大出力レベル : +24dBu (12.28Vrms)

PHONES端子

コネクター : 6.3mm (1/4") ステレオ標準ジャック
最大出力レベル : 45mW+45mW以上
(THD+N 0.1%以下、32 Ω 負荷)

デジタルオーディオ出力定格

DIGITAL OUT端子

コネクター : BNCコネクター
フォーマット : AES3-2003 / AES-3id-2001 / IEC60958-4
(AES/EBU)
出カインピーダンス : 75 Ω

コントロール入出力定格

WORD IN端子

コネクター : BNCコネクター
入力電圧 : 5V TTL相当
入カインピーダンス : 75 Ω
外部同期時の許容周波数偏差 : ± 100 ppm
終端有り/無し切り換えスイッチ付き

WORD THRU端子

コネクター : BNCコネクター
出力電圧 : 5V TTL相当
出カインピーダンス : 75 Ω

REMOTE IN (SERIAL) 端子

コネクター : D-sub 15ピン

REMOTE IN (PARALLEL) 端子

コネクター : D-sub 37ピン
最大入力電圧 : +5.5V
ハイレベル最小入力電圧 : +3.75V
ローレベル最大入力電圧 : +1.25V
出力形式 : オープンドレイン (耐圧50V、最大100mA)
ローレベル最大出力電圧 : 0.5V
+5V電源 最大供給電流 : 100mA

KEYBOARD 端子

コネクター : USB Aタイプ 4ピン
プロトコル : USB 1.1 LOW SPEED (1.5Mbps)
+5V電源 最大供給電流 : 500mA

オーディオ性能

周波数特性

20Hz-20kHz : ± 0.5 dB (再生時、JEITA)

歪率

0.005%以下 (再生時、JEITA)

S/N比

100dB以上 (再生時、JEITA)

ダイナミックレンジ

95dB (再生時、JEITA)

チャンネル間クロストーク

95dB (再生時、JEITA)

注) JEITA : JEITA CP-2150基準

バックアップメモリー

本機は、電源をオフにしても、以下の設定をバックアップします。

- 再生モードの設定
- プログラム再生の設定
- キュー再生の設定 (CD : 500枚分)
- 各メニュー項目の設定
(オートキュー機能の設定、オートレディ機能の設定、インクリメンタルプレー機能の設定、ONLINE BACK CUE機能、PLAY KEY FUNCTION機能、MONITOR PLAY STBY機能、ONLINE PLAY STBY機能、リピート再生機能の設定、EOM機能の設定、エンドチェックの設定、ピッチコントロール値の設定、外部リモコン機能の設定、ジョグ再生の設定、RS-232Cの設定、デジタル出力の設定、アナログ出力の設定、オンライン機能の設定、マスタークロックの設定、モノラルミックス再生の設定、レベルメーター表示の設定、フェールセーフ機能の設定、モニタリングポイントの設定、モニターミュートバイオンラインの設定、ディスプレイとインジケータの輝度設定、ディスプレイのコントラスト設定、キーボードタイプの設定)

一般

電源

AC100-240V、50-60Hz

消費電力

18W

外形寸法

220 x 136.8 x 385.2mm (幅 x 高さ x 奥行)

質量

6kg

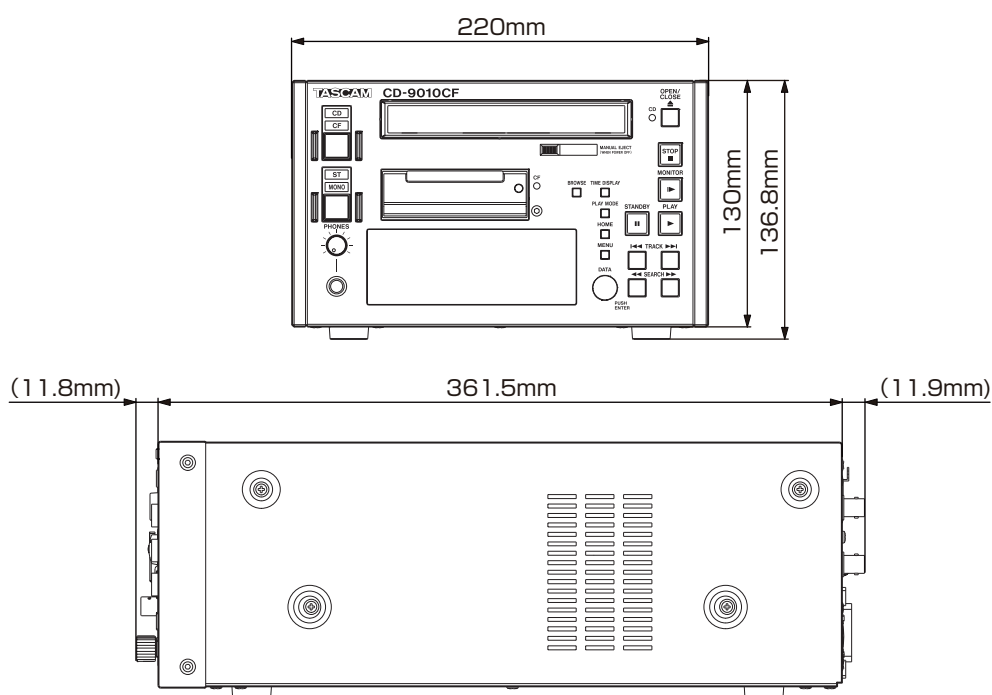
動作温度

5~35℃

設置時傾斜

5度以内

寸法図



- * 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- * 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<https://tascam.jp/jp/>